

2026年度（令和8年度）

履修案内

弘前大学医学部医学科

目 次

1. 令和8年度医学部医学科行事予定	2
2. 令和8年度健康診断日程表	5
3. 令和8年度授業日程表	6
4. 令和8年度授業時間割表〔1～6年次〕	12
5. 各学年のアウトカム	16
《2026年度以降入学者》	16
《2019年度～2025年度入学者》	20
6. 医学科の使命・コンピテンシー	23
7. 専門教育科目試験申合せ	27
《2026年度以降入学者》	27
《2025年度以前入学者》	29
8. 弘前大学医学部医学科学士編入学に関する申合せ	31
9. 授業科目の履修成績に対する異議申立てに関わるガイドライン（一部抜粋）	33
10. アンプロフェッショナルな学生の定義・対応に係る取扱要領	35
11. 不正行為ガイドライン（一部抜粋）	41
12. 事務手続き等について	43
13. 授業科目一覧	46
《2026年度以降入学者》	46
《2019年度～2025年度入学者》	48
《2014年度～2018年度入学者》	50
14. 講義室等配置図	52
15. カリキュラムマップ	54

各科目の授業計画（シラバス）は、CAMPUS SQUARE から確認することができます。

CAMPUS SQUARE トップ → 教務／授業関連 → シラバス → シラバス参照

CAMPUS SQUARE

（学生出席確認専用）



令和8年度 医学部医学科 行事予定

医学科 1 年

区分	行 事	月 日
前期	入学式	4月3日（金）
	新入生・1年次学生ガイダンス	4月7日（火） 教養教育ガイダンス 9：00～10：10 専門教育ガイダンス 10：20～12：15 情報システム利用ガイダンス 26M1001～1060 13：00～14：30 26M1061～ 15：30～17：00
	青森県知事との懇談会	4月8日（水） 18：00～
	前期授業開始日	4月13日（月）
	開学記念日	5月31日（土）
	前期統一試験（前期終了日）	8月3日（月） 予定
	夏季休業	8月4日（火）～9月30日（水）
	※夏季休業期間中に、早期体験実習（Early Exposure）を実施予定。詳細は後日通知する。	
後期	後期授業開始日	10月1日（木）
	総合文化祭	11月6日（金）～11月8日（日）
	冬季休業前授業最終日	12月25日（金）
	冬季休業	12月26日（土）～1月4日（月）
	授業再開	1月5日（火）
	後期統一試験（後期終了日）	2月8日（月）、2月12日（金） 予定
	学年末休業	2月13日（土）～3月31日（水）

医学科 2 年

区分	行 事	月 日
前期	2年次学生ガイダンス	4月2日（木） 13：00～13：40
	前期授業開始日	4月6日（月）
	（学士編入学者のみ） 情報システム利用ガイダンス	4月7日（火） 15：30～17：00
	開学記念日	5月31日（土）
	前期授業終了日	7月31日（金）
	夏季休業	8月1日（土）～9月30日（水）
後期	後期授業開始日	10月1日（木）
	解剖体慰霊祭	10月6日（火）
	総合文化祭	11月6日（金）～11月8日（日）
	冬季休業前授業最終日	12月25日（金）
	冬季休業	12月26日（土）～1月4日（月）
	授業再開	1月5日（火）
	後期授業終了日	2月12日（金）
	学年末休業	2月13日（土）～3月31日（水）

医学科 3 年

区分	行 事	月 日
前 期	3年次学生ガイダンス	4月2日（木） 14：00～14：40
	前期授業開始日	4月6日（月）
	開学記念日	5月31日（土）
	実験動物慰霊式	6月19日（金）
	前期試験期間	7月13日（月）～7月24日（金）
	夏季休業	7月25日（土）～9月30日（水）
後 期	後期授業開始日	10月1日（木）
	総合文化祭	11月6日（金）～11月8日（日）
	冬季休業前授業最終日	12月25日（金）
	冬季休業	12月26日（土）～1月4日（月）
	授業再開	1月5日（火）
	後期試験期間	1月20日（水）～2月2日（火）
	学年末休業	2月3日（水）～3月31日（水）

医学科 4 年

区分	行 事	月 日
前 期	4年次学生ガイダンス	4月2日（木） 15：00～15：40
	前期授業開始	4月6日（月）
	開学記念日	5月31日（土）
	CBT模試	6月26日（金） 予定
	前期試験期間	7月6日（月）～7月17日（金）
	夏季休業	7月18日（土）～9月6日（日）
後 期	総合教育演習 I（CBT）	9月3日（木） ※8月24日（月）～28日（金）の間でCBT実施一週間前 学生事前説明会の実施予定
	後期授業開始	9月7日（月）
	（総合教育演習 I（CBT） 追再試）	9月29日（火）
	総合文化祭	11月6日（金）～11月8日（日）
	臨床実習前OSCE	11月28日（土）
	後期試験期間	12月17日（木）～12月21日（月）
	（臨床実習前OSCE 追再試）	1月6日（水）
	CCS授与式、5年次学生ガイダンス	1月25日（月）～1月29日（金） 予定
	臨床実習 I 開始	2027年2月1日（月） 予定

医学科5年

区分	行 事	月 日
前 期	CCS授与式	2月3日（火） 13:30～
	5年次学生ガイダンス	2月3日（火） （CCS証授与式終了後）
	臨床実習Ⅰ	2月9日（月）～7月17日（金）
	開学記念日	5月31日（土）
	夏季休業	7月18日（土）～8月16日（日）
後 期	臨床実習Ⅰ	8月17日（月）～12月25日（金）
	冬季休業	12月26日（土）～1月3日（日）
	臨床実習Ⅰ	1月4日（月）～1月29日（金）
	臨床実習Ⅱ開始	2027年2月15日（月）予定

医学科6年

区分	行 事	月 日
前 期	6年次学生ガイダンス	2月20日（金） 15:00～
	臨床実習Ⅱ	2月24日（火）～7月17日（金） （クリニカルクラークシップⅡ 第1～5クール）
	開学記念日	5月31日（土）
	夏季休業	7月19日（土）～8月16日（日）
後 期	総合教育演習Ⅱ	8月17日（月）～10月16日（金） （クリニカルクラークシップⅡ 第6、7クール）
	臨床実習後OSCE	10月24日（土）
	総合教育演習Ⅲ（総合試験）	11月中旬予定
	（臨床実習後OSCE 追再試）	11月14日（土）
	医師国家試験	未定（例年2月上旬実施 厚労省施行通知により確定）
	学位記授与式	3月23日（火）

令和8年度 健康診断日程表

【定期健康診断】

保健管理センターHPから各自予約し、Web問診を回答のうえ、健康診断必ず受検してください。
HPからの予約は4月初旬に開始予定ですのでこまめに保健管理センターHPを確認してください。
6年生はマッチング手続きなどで健康診断証明書を求められる場合があります。
健康診断証明書は自動発行機から発行可能です。

対象	場 所	日 時	
令和8年度新入生(男性) (26Mの1年次、2年次学士)	保健管理センター分室、MCC	6月24日 (水)	14:00 ~ 15:40
令和8年度新入生(女性) (26Mの1年次、2年次学士)	保健管理センター分室、MCC	6月17日 (水) 7月1日 (水)	14:00 ~ 15:40
1年次(25M～)、2～6年次 (男性)	保健管理センター分室、MCC	5月22日 (金) 5月26日 (火) 5月29日 (金) 6月4日 (木)	13:30 ~ 16:00
1年次(25M～)、2～6年次 (女性)	保健管理センター分室、MCC	5月21日 (木) 5月28日 (木) 6月2日 (火) 6月5日 (金)	13:30 ~ 16:00

【2年次 末梢血検査】

生化学実習のアイソトープ総合実験室での実習を行うために末梢血検査を受ける必要があります。
必ず受検してください。

対象	場 所	日 時	
2 年 次	学士編入(25M1121～25M1140) 25M1001～25M1026	4月1日 (水)	9:30 ~ 10:30
	25M1027～25M1071	4月2日 (木)	9:30 ~ 10:30
	25M1072～25M1112 24M～	4月3日 (金)	9:30 ~ 10:30

【4・5・6年次 B型肝炎ワクチン接種】

B型肝炎ワクチンは接種間隔を置き3回接種する必要があります。対象者は全3回の接種を受けてください。
詳細な日程は調整中のため決定後お知らせします。

対象	場 所	日 時
4年生 令和7年度抗体価が陰性の5・6年 生 ※入学時にHBs抗体価陽性の学生 は接種対象ではありません。	基礎大講堂	5月15日(金)
		6月12日(金)
		10月21日(水)

【4・5・6年次 採血】

4年生と令和7年度にB型肝炎ワクチン接種をした5・6年生が対象です。
HBs抗体価等検査のための採血となります。

対象	場 所	日 時
23M1001～23M1056	保健管理センター(文京町)	12月22日 (月) 10:00 ~ 11:00
23M1057～23M1122		12月23日 (火) 10:00 ~ 11:00
23M1110～23M1140 22M～、5・6年生		12月24日 (水) 10:00 ~ 11:00

※上記予定に変更があった場合は、掲示にてお知らせします。

2026年度 授業日程 1年

前期（網かけ期日は授業日）									後期（網かけ期日は授業日）								
	日	月	火	水	木	金	土	備考		日	月	火	水	木	金	土	備考
2026 年 4月				1	2	3	4	3日 入学式 1～10日 ガイダンス・履修相談等 13日 前期授業開始日 (4月中旬～6月下旬 定期健康診断) 30日 水曜日の授業	10月					1	2	3	1日 後期授業開始日 14日 月曜日の授業 29日 金曜日の授業 23・30日 全日休講日 10/31～11/1日 総合型選抜入試
	5	6	7	8	9	10	11			4	5	6	7	8	9	10	
	12	13	14	15	16	17	18			11	12	13	14	15	16	17	
	19	20	21	22	23	24	25			18	19	20	21	22	23	24	
	26	27	28	29	30					25	26	27	28	29	30	31	
5月						1	2		11月	1	2	3	4	5	6	7	6日午後～8日 総合文化祭 6・9日 全日休講日
	3	4	5	6	7	8	9			8	9	10	11	12	13	14	
	10	11	12	13	14	15	16			15	16	17	18	19	20	21	
	17	18	19	20	21	22	23			22	23	24	25	26	27	28	
	24	25	26	27	28	29	30			29	30						
	31																
6月		1	2	3	4	5	6		12月			1	2	3	4	5	25日 冬季休業前授業最終日
	7	8	9	10	11	12	13			6	7	8	9	10	11	12	
	14	15	16	17	18	19	20			13	14	15	16	17	18	19	
	21	22	23	24	25	26	27			20	21	22	23	24	25	26	
	28	29	30							27	28	29	30	31			
7月				1	2	3	4	31日 月曜日の授業	2027 年 1月						1	2	5日 冬季休業後授業再開日 7日 月曜日の授業 12日 月曜日の授業 15日 全日休講日(仮) 16,17日 大学入学共通テスト
	5	6	7	8	9	10	11			3	4	5	6	7	8	9	
	12	13	14	15	16	17	18			10	11	12	13	14	15	16	
	19	20	21	22	23	24	25			17	18	19	20	21	22	23	
	26	27	28	29	30	31				24	25	26	27	28	29	30	
										31							
8月							1	3日 前期統一試験 8日オープンキャンパス 12～14日一斉休業 夏季休業期間中に、 早期体験実習(Early Exposure)を実施予定。詳細は後日通知する。	2月		1	2	3	4	5	6	3日 金曜日の授業 8日,12日 後期統一試験 25,26日 個別学力検査(前期日程)
	2	3	4	5	6	7	8			7	8	9	10	11	12	13	
	9	10	11	12	13	14	15			14	15	16	17	18	19	20	
	16	17	18	19	20	21	22			21	22	23	24	25	26	27	
	23	24	25	26	27	28	29			28							
	30	31															
9月			1	2	3	4	5		3月		1	2	3	4	5	6	23日 学位記授与式
	6	7	8	9	10	11	12			7	8	9	10	11	12	13	
	13	14	15	16	17	18	19			14	15	16	17	18	19	20	
	20	21	22	23	24	25	26			21	22	23	24	25	26	27	
	27	28	29	30						28	29	30	31				

授業実施日の曜日振替調整後

	月	火	水	木	金
前期	15	15	15	15	15

前期 75

	月	火	水	木	金
後期	15	15	15	15	15

後期 75

2026年度 授業日程 2年

前期（網かけ期日は授業日）								後期（網かけ期日は授業日）									
	日	月	火	水	木	金	土	備考		日	月	火	水	木	金	土	備考
2026 年 4月				1	2	3	4	6日 前期授業開始日 (4月中旬～6月下旬 定期健康診断) 30日 水曜日の授業	10月					1	2	3	1日 後期授業開始日 6日 解剖体慰霊祭 14日 月曜日の授業 29日 金曜日の授業 23・30日 全日休講日 10/31～11/1日 総合型選抜入試
	5	6	7	8	9	10	11			4	5	6	7	8	9	10	
	12	13	14	15	16	17	18			11	12	13	14	15	16	17	
	19	20	21	22	23	24	25			18	19	20	21	22	23	24	
	26	27	28	29	30					25	26	27	28	29	30	31	
5月						1	2		11月	1	2	3	4	5	6	7	6日 午後～8日 総合文化祭 6・9日 全日休講日
	3	4	5	6	7	8	9			8	9	10	11	12	13	14	
	10	11	12	13	14	15	16			15	16	17	18	19	20	21	
	17	18	19	20	21	22	23			22	23	24	25	26	27	28	
	24	25	26	27	28	29	30			29	30						
	31																
6月		1	2	3	4	5	6		12月			1	2	3	4	5	25日 冬季休業前授業最終日
	7	8	9	10	11	12	13			6	7	8	9	10	11	12	
	14	15	16	17	18	19	20			13	14	15	16	17	18	19	
	21	22	23	24	25	26	27			20	21	22	23	24	25	26	
	28	29	30							27	28	29	30	31			
7月				1	2	3	4	31日 月曜日の授業 31日 前期授業・試験終了日	2027 年 1月						1	2	5日 冬季休業後授業再開日 7日 月曜日の授業 12日 月曜日の授業 15日 全日休講日(仮) 16,17日 大学入学共通テスト
	5	6	7	8	9	10	11			3	4	5	6	7	8	9	
	12	13	14	15	16	17	18			10	11	12	13	14	15	16	
	19	20	21	22	23	24	25			17	18	19	20	21	22	23	
	26	27	28	29	30	31				24	25	26	27	28	29	30	
										31							
8月							1	8日 オープンキャンパス 12～14日 一斉休業	2月		1	2	3	4	5	6	12日 後期授業・試験終了日 10日 金曜日の授業 12日 火曜日の授業 25,26日 個別学力検査(前期日程)
	2	3	4	5	6	7	8			7	8	9	10	11	12	13	
	9	10	11	12	13	14	15			14	15	16	17	18	19	20	
	16	17	18	19	20	21	22			21	22	23	24	25	26	27	
	23	24	25	26	27	28	29			28							
	30	31															
9月			1	2	3	4	5		3月		1	2	3	4	5	6	23日 学位記授与式
	6	7	8	9	10	11	12			7	8	9	10	11	12	13	
	13	14	15	16	17	18	19			14	15	16	17	18	19	20	
	20	21	22	23	24	25	26			21	22	23	24	25	26	27	
	27	28	29	30						28	29	30	31				

授業実施日の曜日振替調整後

	月	火	水	木	金
前期	15 +	15 +	15 +	15 +	15 +
	1	1	1	1	1

前期 75+5

	月	火	水	木	金
後期	15 +	15 +	15 +	15 +	15 +
	1	1	1	1	1

後期 75+5

2026年度 授業日程 3年

前期（網かけ期日は授業日）								後期（網かけ期日は授業日）									
	日	月	火	水	木	金	土	備考		日	月	火	水	木	金	土	備考
2026 年 4月				1	2	3	4	6日 前期授業開始日 (4月中旬～6月下旬 定期健康診断) 30日 水曜日の授業	10月					1	2	3	1日 後期授業開始日
	5	6	7	8	9	10	11			4	5	6	7	8	9	10	14日 月曜日の授業 29日 金曜日の授業 23・30日 全日休講日 10/31～11/1日 総合型選抜入試
	12	13	14	15	16	17	18			11	12	13	14	15	16	17	
	19	20	21	22	23	24	25			18	19	20	21	22	23	24	
	26	27	28	29	30					25	26	27	28	29	30	31	
5月						1	2		11月	1	2	3	4	5	6	7	6日午後～8日 総合文化祭
	3	4	5	6	7	8	9			8	9	10	11	12	13	14	6・9日 全日休講日
	10	11	12	13	14	15	16			15	16	17	18	19	20	21	
	17	18	19	20	21	22	23			22	23	24	25	26	27	28	
	24	25	26	27	28	29	30			29	30						
	31																
6月		1	2	3	4	5	6	19日 動物実験慰霊式	12月			1	2	3	4	5	25日 冬季休業前授業最終日
	7	8	9	10	11	12	13			6	7	8	9	10	11	12	
	14	15	16	17	18	19	20			13	14	15	16	17	18	19	
	21	22	23	24	25	26	27			20	21	22	23	24	25	26	
	28	29	30							27	28	29	30	31			
7月				1	2	3	4	3日前期授業終了日	2027 年 1月						1	2	5日 冬季休業後授業再開日 7日 月曜日の授業 12日 月曜日の授業 12日 後期授業終了日 16,17日 大学入学共通テスト 自習・補講期間(1/13～1/19) 後期試験期間(1/20～2/2)
	5	6	7	8	9	10	11	3		4	5	6	7	8	9		
	12	13	14	15	16	17	18	10		11	12	13	14	15	16		
	19	20	21	22	23	24	25	17		18	19	20	21	22	23		
	26	27	28	29	30	31		24		25	26	27	28	29	30		
								31									
8月							1	8日オープンキャンパス 12～14日一斉休業	2月		1	2	3	4	5	6	25,26日 個別学力検査(前期日程)
	2	3	4	5	6	7	8	7		8	9	10	11	12	13		
	9	10	11	12	13	14	15	14		15	16	17	18	19	20		
	16	17	18	19	20	21	22	21		22	23	24	25	26	27		
	23	24	25	26	27	28	29	28									
	30	31															
9月			1	2	3	4	5		3月		1	2	3	4	5	6	23日 学位記授与式
	6	7	8	9	10	11	12			7	8	9	10	11	12	13	
	13	14	15	16	17	18	19			14	15	16	17	18	19	20	
	20	21	22	23	24	25	26			21	22	23	24	25	26	27	
	27	28	29	30						28	29	30	31				

授業実施日の曜日振替調整後

	月	火	水	木	金
前期	12 +	12 +	12 +	12 +	12 +
	1	1	1	1	1

前期 60+5

	月	火	水	木	金
後期	12 +	12 +	12 +	12 +	12 +
	1	1	1	1	1

後期 60+5

2026年度 授業日程 4年

前期（網かけ期日は授業日）								後期（網かけ期日は授業日）									
	日	月	火	水	木	金	土	備考		日	月	火	水	木	金	土	備考
2026 年 4月				1	2	3	4	6日 前期授業開始日 (4月中旬～6月下旬 定期健康診断) 30日 水曜日の授業	9月			1	2	3	4	5	3日 CBT
	5	6	7	8	9	10	11			6	7	8	9	10	11	12	
	12	13	14	15	16	17	18			13	14	15	16	17	18	19	
	19	20	21	22	23	24	25			20	21	22	23	24	25	26	
	26	27	28	29	30					27	28	29	30				
5月						1	2		10月					1	2	3	29日 金曜日の授業 23・30日 全日休講日 10/31～11/1日 総合型選抜入試
	3	4	5	6	7	8	9			4	5	6	7	8	9	10	
	10	11	12	13	14	15	16			11	12	13	14	15	16	17	
	17	18	19	20	21	22	23			18	19	20	21	22	23	24	
	24	25	26	27	28	29	30			25	26	27	28	29	30	31	
	31																
6月		1	2	3	4	5	6	18日 前期授業終了日 CBT模試のための学習期間 (6/19～6/25) 26日 CBT模試 自習・補習期間(6/29～7/3)	11月	1	2	3	4	5	6	7	6日 午後～8日 総合文化祭 9日～27日 Pre-CC 28日 Pre-CC OSCE
	7	8	9	10	11	12	13			8	9	10	11	12	13	14	
	14	15	16	17	18	19	20			15	16	17	18	19	20	21	
	21	22	23	24	25	26	27			22	23	24	25	26	27	28	
	28	29	30							29	30						
7月				1	2	3	4	前期試験期間(7/6～7/17)	12月			1	2	3	4	5	16日 金曜日の授業 16日 後期授業終了日 補講・後期試験期間 (12/17～12/18)
	5	6	7	8	9	10	11			6	7	8	9	10	11	12	
	12	13	14	15	16	17	18			13	14	15	16	17	18	19	
	19	20	21	22	23	24	25			20	21	22	23	24	25	26	
	26	27	28	29	30	31				27	28	29	30	31			
8月							1	8日 オープンキャンパス 12～14日 一斉休業 ※CBT実施一週間前 学生事前説明会実施予定	2027 年						1	2	16,17日 大学入学共通テスト 20日 進級判定会議
	2	3	4	5	6	7	8		3	4	5	6	7	8	9		
	9	10	11	12	13	14	15		10	11	12	13	14	15	16		
	16	17	18	19	20	21	22		17	18	19	20	21	22	23		
	23	24	25	26	27	28	29		24	25	26	27	28	29	30		
	30	31							31								
2月											1	2	3	4	5	6	※2/1～臨床実習Ⅰ開始 25,26日 個別学力検査(前期日程)
										7	8	9	10	11	12	13	
										14	15	16	17	18	19	20	
										21	22	23	24	25	26	27	
										28							

授業実施日の曜日振替調整後

	月	火	水	木	金
前期	10 +	10 +	10 +	10 +	10 +
	1	1	1	1	1

前期 50+5

	月	火	水	木	金
後期	10	10	10	10	10

後期 50

2026年度 臨床実習 I (クリニカル・クラークシップ I) スケジュール

前期								後期										
	日	月	火	水	木	金	土	備考		日	月	火	水	木	金	土	備考	
2026 年 2月	1	2	3	4	5	6	7	2025年度クリクラⅠ終了	8月							1	夏期休暇	
	8	9	10	11	12	13	14			2	3	4	5	6	7	8		
	15	16	17	18	19	20	21			9	10	11	12	13	14	15		
	22	23	24	25	26	27	28			16	17	18	19	20	21	22		
3月	1	2	3	4	5	6	7			23	24	25	26	27	28	29		
	8	9	10	11	12	13	14			30	31							
	15	16	17	18	19	20	21		9月			1	2	3	4	5	9/21～9/25実習休止期間	
	22	23	24	25	26	27	28			6	7	8	9	10	11	12		
29	30	31					13	14		15	16	17	18	19				
4月				1	2	3	4			20	21	22	23	24	25	26		
	5	6	7	8	9	10	11		27	28	29	30						
	12	13	14	15	16	17	18		10月					1	2	3		
	19	20	21	22	23	24	25			4	5	6	7	8	9	10		
	26	27	28	29	30					11	12	13	14	15	16	17		
5月						1	2	5/4～5/8実習休止期間		18	19	20	21	22	23	24		
	3	4	5	6	7	8	9		25	26	27	28	29	30	31			
	10	11	12	13	14	15	16		11月	1	2	3	4	5	6	7		
	17	18	19	20	21	22	23			8	9	10	11	12	13	14		
	24	25	26	27	28	29	30			15	16	17	18	19	20	21		
	31									22	23	24	25	26	27	28		
6月		1	2	3	4	5	6		12月	29	30						冬季休暇	
	7	8	9	10	11	12	13					1	2	3	4	5		
	14	15	16	17	18	19	20			6	7	8	9	10	11	12		
	21	22	23	24	25	26	27			13	14	15	16	17	18	19		
7月	28	29	30					夏期休暇		20	21	22	23	24	25	26		
				1	2	3	4			27	28	29	30	31				
	5	6	7	8	9	10	11		2027 年 1月						1	2		
	12	13	14	15	16	17	18			3	4	5	6	7	8	9		
	19	20	21	22	23	24	25			10	11	12	13	14	15	16		
26	27	28	29	30	31		17	18		19	20	21	22	23				
									24	25	26	27	28	29	30			
									31									

※ 臨床実習 I (クリニカル・クラークシップ I) 44週

2026年度 臨床実習Ⅱ (クリニカル・クラークシップⅡ)スケジュール

前期								後期									
	日	月	火	水	木	金	土	備 考		日	月	火	水	木	金	土	備 考
2026 年 2月	1	2	3	4	5	6	7	2025年度クリクラⅠ終了 2/9～2/20実習休止期間	8月							1	夏期休暇
	8	9	10	11	12	13	14			2	3	4	5	6	7	8	
	15	16	17	18	19	20	21			9	10	11	12	13	14	15	
	22	23	24	25	26	27	28	第1クール		16	17	18	19	20	21	22	
3月	1	2	3	4	5	6	7	第2クール	9月			1	2	3	4	5	第7クール前半 9/21～9/25実習休止期間 第7クール後半
	8	9	10	11	12	13	14			6	7	8	9	10	11	12	
	15	16	17	18	19	20	21			13	14	15	16	17	18	19	
	22	23	24	25	26	27	28			20	21	22	23	24	25	26	
4月				1	2	3	4	第3クール前半	10月					1	2	3	17日 臨床実習後OSCE
	5	6	7	8	9	10	11			4	5	6	7	8	9	10	
	12	13	14	15	16	17	18			11	12	13	14	15	16	17	
	19	20	21	22	23	24	25			18	19	20	21	22	23	24	
5月						1	2	5/4～5/8実習休止期間 第3クール後半 第4クール	11月	25	26	27	28	29	30	31	※11月中旬(予定) 総合教育演習Ⅲ(総合試験)
	3	4	5	6	7	8	9			1	2	3	4	5	6	7	
	10	11	12	13	14	15	16			8	9	10	11	12	13	14	
	17	18	19	20	21	22	23			15	16	17	18	19	20	21	
6月								第5クール	12月	22	23	24	25	26	27	28	
	24	25	26	27	28	29	30			29	30						
		1	2	3	4	5	6					1	2	3	4	5	
	7	8	9	10	11	12	13			6	7	8	9	10	11	12	
7月	14	15	16	17	18	19	20	夏期休暇	2027 年 1月	13	14	15	16	17	18	19	
	21	22	23	24	25	26	27			20	21	22	23	24	25	26	
	28	29	30							27	28	29	30	31			
				1	2	3	4								1	2	
	5	6	7	8	9	10	11		3	4	5	6	7	8	9		
	12	13	14	15	16	17	18		10	11	12	13	14	15	16		
	19	20	21	22	23	24	25		17	18	19	20	21	22	23		
	26	27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30		
									31								

※ 臨床実習Ⅱ 20週 } クリニカル・クラークシップⅡ (28週)
 ※ 総合教育演習Ⅱ 8週 }

令和8年度 医学部医学科 授業時間割表〔2～6年次〕

[医学科校舎] ①基礎第1講義室 ②基礎第2講義室 ③講義棟
④基礎大講堂 △学生パソコン室 ◇大集会室

【前期】

2年次 前期前半(4月～6月上旬)

		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	2	解剖学・解剖学実習 ②基礎2				
火	2	解剖学・解剖学実習 ②基礎2				
水	2		地域医療入門 ②基礎2	解剖学・解剖学実習 ②基礎2		
木	2	解剖学・解剖学実習 ②基礎2				
金	2	解剖学・解剖学実習 ②基礎2				

2年次 前期後半(6月中旬～7月末)

		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	2	生理学 ②基礎2		生理学・生理学実習 ②基礎2		
火	2		生理学 ②基礎2	生理学・生理学実習 ②基礎2		
水	2		地域医療入門 ②基礎2	生理学・生理学実習 ②基礎2		
木	2	生理学 ②基礎2		生化学実習 ②基礎2		
金	2	生理学 ②基礎2		生化学実習 ②基礎2		

3年次

		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	3		感染症学 ③講義棟	消化器内科学・外科学Ⅰ ③講義棟	呼吸器内科学・外科学Ⅰ ③講義棟	内分泌・代謝学Ⅰ ③講義棟
火	3	循環器内科学・外科学Ⅰ ③講義棟	薬理学 ③講義棟	薬理学実習 / 病理学実習 ③講義棟		
水	3	循環器内科学・外科学Ⅰ ③講義棟	神経精神医学Ⅰ ③講義棟	病理学実習 ③講義棟		
木	3		小児科学Ⅰ ③講義棟	消化器内科学・外科学Ⅰ ③講義棟		外科学概論 ③講義棟
金	3	社会医学・社会医学実習 / (病理学実習) ③講義棟				

令和8年度 医学部医学科 授業時間割表〔2～6年次〕

[医学科校舎] ①基礎第1講義室 ②基礎第2講義室 ③講義棟
④基礎大講堂 △学生パソコン室 ◇大集会室

【前期】

4年次

		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	4	臨床検査医学 ④基礎大	麻酔科学・緩和医療学Ⅱ ④基礎大		耳鼻咽喉・頭頸部外科学 ④基礎大	医学英語Ⅳ △PC室、④基礎大
火	4	周産期医学 ④基礎大	脳神経外科学 ④基礎大	整形外科Ⅱ ④基礎大	泌尿器科学 ④基礎大	放射線腫瘍学 ④基礎大
水	4	法医学 ④基礎大	症候学 ④基礎大	救急・災害医学 ④基礎大	形成外科学 ④基礎大	血液内科学Ⅰ ④基礎大
木	4	眼科学 ④基礎大		皮膚科学 ④基礎大	歯科口腔外科学 ④基礎大	小児外科学 ④基礎大
金	4			医療安全学 ④基礎大	臨床腫瘍学 ④基礎大	血液内科学Ⅱ ④基礎大

5年次

		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
	5	臨床実習Ⅰ				

6年次

		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
	6	臨床実習Ⅱ				

令和8年度 医学部医学科 授業時間割表〔2～6年次〕

[医学科校舎] ①基礎第1講義室 ②基礎第2講義室 ③講義棟
④基礎大講堂 △学生パソコン室 ◇大集会室

【後期】

2年次

		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	2	(学士:生化学(講義1)) ①基礎1	(学士:生化学(講義2)) ①基礎1	神経科学・神経科学実習 ②基礎2		
火	2	薬理学 ②基礎2		医学英語Ⅱ ②基礎2	医用統計学(集中) ②基礎2 △学生パソコン室	
水	2	免疫学 ②基礎2	病理学 ②基礎2	(学士:組織学・組織学実習) ①基礎1		
木	2	被ばく医療学 ②基礎2	病理学 ②基礎2	微生物学・微生物学実習 ②基礎2		
金	2	微生物学・微生物学実習 ②基礎2		医用統計学(集中) ②基礎2		

3年次

		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	3	呼吸器内科学・外科学Ⅱ ③講義棟	消化器内科学・外科学Ⅱ ③講義棟	循環器内科学・外科学Ⅱ ③講義棟	麻酔科学・緩和医療学Ⅰ ③講義棟	内分泌・代謝学Ⅰ ③講義棟
火	3	婦人科学 ③講義棟	腎臓内科学 ③講義棟	整形外科Ⅰ ③講義棟	内分泌・代謝学Ⅱ ③講義棟	放射線診断学 ③講義棟
水	3	医学英語Ⅲ		研究室研修		
木	3	臨床免疫学 ③講義棟	神経精神医学Ⅱ ③講義棟	研究室研修		
金	3	小児科学Ⅱ ③講義棟	神経内科学 ③講義棟	研究室研修		

4年次

		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	4	PBL 学生支援センター1号棟		臨床実習入門(演習科目) ④基礎大講堂		
火	4	PBL	リハビリテーション医学 ④基礎大講堂	臨床実習入門(演習科目) ④基礎大講堂		
水	4		PBL	臨床実習入門(演習科目) ④基礎大講堂		
木	4	病理診断学 ④基礎大講堂	PBL	臨床実習入門(演習科目) ④基礎大講堂		
金	4	PBL 学生支援センター1号棟	PBL ④基礎大講堂	臨床実習入門(演習科目) ④基礎大講堂		臨床薬理・和漢薬学 ④基礎大講堂

5年次

		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
	5	臨床実習Ⅰ				

6年次

		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
	6	総合教育演習Ⅱ / 総合教育演習Ⅲ(総合試験)				

各学年のアウトカム【令和8(2026)年度以降入学者】

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
PR：プロフェッショナルリズム	●人の生命と健康を守ることの職責を理解する ●常にふさわしい身だしなみ・態度・言動など自己の行動に責任を持つことができる ●患者・家族・医療スタッフに対して、敬意と配慮をもって接することを理解できる	●医師の社会的責任と職業倫理の重要性を説明できる ●患者の尊厳、プライバシー、自己決定権を尊重することの意義を説明できる ●医療安全、利益相反、研究倫理を理解し、学生として適切な行動をとることができる	●高い倫理観と責任感を持って診療にあたる必要性を説明できる ●患者の尊厳、権利、プライバシーを尊重した医療の重要性を説明できる ●医療安全、インフォームド・コンセント、説明責任の重要性を理解し説明できる	●倫理観、責任感、適切な態度を実践できる ●守秘義務、個人情報保護、患者の権利を理解し説明できる ●医療安全、インシデント報告、チーム医療における責任の所在について説明できる	●医療チームの一員としての自覚を持ち、責任ある態度で行動できる ●守秘義務、個人情報保護、患者の尊厳の尊重を臨床現場で実践できる ●医療安全に配慮し、インシデントやヒヤリ・ハット事例について指導医に報告できる	●医療チームの一員として責任を持ち、規範と倫理に基づいた行動を実践できる ●守秘義務、個人情報保護、患者の尊厳の尊重を常に意識し行動できる ●医療安全の重要性を理解し、問題点に気づいた場合には適切に報告・相談できる
科目名	医療行動科学Ⅰ、Ⅱ 臨床医学入門 医の倫理と原則 医学・生命科学入門 臨床実習Ⅰ	人体の構造 代謝と遺伝実習 人体の構造実習 臨床実習Ⅱ	社会と医学・行動科学 臨床実習Ⅲ 研究室研修	臨床実習入門 PBL 医療安全 チーム医療 人の死・死と法 総合教育演習Ⅰ	臨床実習Ⅳ	臨床実習Ⅴ 総合教育演習Ⅱ、Ⅲ
GE：総合的に患者・生活者をみる姿勢	●患者を「疾患」だけでなく「生活者」として捉える視点の重要性を説明できる ●健康問題が、身体的要因のみならず心理的・社会的背景と関係していることを理解できる ●多様な医療現場の存在を知り、医療が社会の中で果たす役割の概略を理解できる	●疾患が患者の生活・心理・社会背景と密接に関係していることを説明できる ●ライフステージ(小児・成人・高齢者)によって健康問題が異なることを理解できる ●地域や家庭環境が健康に与える影響の基本的な考え方を説明できる	●疾患を生活背景や社会的要因と関連づけて考える重要性を説明できる ●複数の疾患や問題を併せ持つ患者を理解し、全人的に捉える必要性を説明できる ●ライフステージや地域性によって、医療ニーズが異なることを説明できる	●統合的学修を実践できる ●複数の健康問題を併せ持つ患者に対し、全人的視点で考えることができる ●地域医療や在宅医療の基本的な考え方を説明できる	●担当患者について、疾患だけでなく心理・社会的背景を含めて情報を整理し説明できる ●複数の問題を有する患者に対して、指導医とともに優先順位を説明できる ●退院後の生活や社会復帰を見据えた医療の視点の重要性を説明できる	●担当患者に対し、医学的問題と心理・社会的背景、生活状況を包括的に評価できる ●複数の健康問題を有する患者に対して、指導医のもとで優先順位を整理決定できる ●退院後や地域での生活を見据えた医療の視点を持って患者を捉えることができる
科目名	医療行動科学Ⅰ、Ⅱ 臨床医学入門 医の倫理と原則 医学・生命科学入門 代謝と遺伝 正常と病理Ⅰ 正常と病理Ⅰ実習 臨床実習Ⅰ	生体の機能と薬物 生体の機能と薬物実習 代謝と遺伝実習 微生物と感染症Ⅰ実習 正常と病理Ⅱ 正常と病理Ⅱ実習 臨床実習Ⅱ	循環器 呼吸器 消化器 内分泌代謝 脳神経Ⅱ 血液とリンパ 微生物と感染症Ⅱ 高齢者医療 臨床腫瘍 臨床検査 免疫と疾患Ⅱ 社会と医学・行動科学 社会と医学・行動科学実習 腎泌尿器 運動器 救急災害・被災医療 リハビリテーション 麻酔・緩和医療 眼・視覚 歯科口腔 皮膚 耳鼻咽喉 臨床実習Ⅲ 研究室研修	婦人科と周産期 精神 形成・組織再建 成長と発達 人の死・死と法 放射線診断と治療 臨床薬理と漢方 症候と診断の基礎 PBL 医療安全 チーム医療 地域医療・総合診療 臨床実習入門 総合教育演習Ⅰ	臨床実習Ⅳ	臨床実習Ⅴ 総合教育演習Ⅱ、Ⅲ
LL：生涯にわたって共に学ぶ姿勢	●生涯にわたる学習が不可欠であることを説明できる ●主体的に学修計画を立てることができる ●自己の学修状況を振り返り、改善点を言語化する習慣を身につけることができる	●学修計画を立てて継続的に学ぶ姿勢を実践できる ●自身の理解度を客観的に評価し、学修方法を改善できる ●将来のキャリア形成に向け、基礎力の重要性を説明できる	●医学知識の統合のため、自ら学修方法を工夫し継続的に学ぶことができる ●試験結果や自己評価をもとに学修計画を見直し改善できる ●臨床実習に向けて主体的に準備を進める姿勢を身につけることができる	●共用試験に向け、自ら課題を設定し計画的に学修を進めることができる ●自己の弱点を把握し改善のための学修計画を立てることができる	●実習中の疑問点を自ら調べ、理解を深める学修習慣を実践できる ●フィードバックを受け、自身の課題を認識し改善に努めることができる ●臨床現場で学び続ける姿勢の重要性を説明できる	●臨床現場で生じた疑問を自ら調べ振り返り、次の診療に活かすことができる ●フィードバックを踏まえて、自己の課題を明確化し継続的に自己研鑽できる
科目名	医療行動科学Ⅰ、Ⅱ 臨床医学入門 医の倫理と原則 医学・生命科学入門 代謝と遺伝 臨床実習Ⅰ 医学英語Ⅰ	人体の構造 生体の機能と薬物 正常と病理Ⅱ 免疫と疾患Ⅰ 脳神経Ⅰ 医用統計 医学英語Ⅱ 臨床実習Ⅱ	循環器 呼吸器 消化器 内分泌代謝 脳神経Ⅱ 血液とリンパ 微生物と感染症Ⅱ 高齢者医療 臨床腫瘍 臨床検査	婦人科と周産期 精神 形成・組織再建 成長と発達 人の死・死と法 放射線診断と治療 臨床薬理と漢方 症候と診断の基礎 PBL 医療安全	臨床実習Ⅳ	臨床実習Ⅴ 総合教育演習Ⅱ、Ⅲ

各学年のアウトカム【令和8(2026)年度以降入学者】

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
			免疫と疾患Ⅱ	チーム医療		
			社会と医学・行動科学	地域医療・総合診療		
			社会と医学・行動科学実習	医学英語Ⅳ		
			腎泌尿器	臨床実習入門		
			運動器	総合教育演習Ⅰ		
			救急災害・被ばく医療			
			リハビリテーション			
			麻酔・緩和医療			
			眼・視覚			
			歯科口腔			
			皮膚			
			耳鼻咽喉			
			臨床実習Ⅲ			
			研究室研修			
			医学英語Ⅲ			
RE 科学的探究	●医学・医療が科学に基づいて発展してきたことを理解できる ●文献や資料を用いて情報を収集し、根拠に基づいて考察する姿勢の重要性を理解できる ●研究不正や研究倫理の基本的考え方について理解し、守るべきルールを理解できる	●医学論文や教科書の記載が、どのような科学的根拠に基づいているかを学修できる ●研究倫理、インフォームド・コンセント、個人情報保護の基本概念を説明できる ●医学・生物学の基本的な統計手法を理解できる	●ガイドラインの根拠を意識して学修できる ●臨床研究や治療の基本的な仕組みと倫理的配慮について説明できる ●指導により研究プロセス（仮説設定、研究計画立案、実施、解析、発表）を遂行できる	●診断・治療方針が、臨床研究やガイドラインに基づいて決定されていることを説明できる ●エビデンスの質を意識して文献を読む必要性を説明できる	●担当患者の診断・治療方針について、ガイドラインや文献を参照して根拠を説明できる ●EBMの基本的な考え方を臨床実習の中で実践できる ●臨床研究や症例報告における倫理的配慮の重要性を説明できる	●診断・治療方針について根拠を説明でき、次の展開を見つけることができる ●エビデンスの限界を意識して判断できる ●臨床研究や症例報告における倫理的配慮の重要性を理解し実践できる
科目名	医療行動科学Ⅰ、Ⅱ 医学・生命科学入門 代謝と遺伝 正常と病理Ⅰ 医の倫理と原則	人体の構造 生体の機能と薬物 正常と病理Ⅱ 微生物と感染症Ⅰ 免疫と疾患Ⅰ 医用統計	循環器 呼吸器 消化器 内分泌代謝 脳神経Ⅱ 血液とリンパ 微生物と感染症Ⅱ 高齢者医療 臨床腫瘍 臨床検査 免疫と疾患Ⅱ 社会と医学・行動科学 社会と医学・行動科学実習 腎泌尿器 運動器 救急災害・被ばく医療 リハビリテーション 麻酔・緩和医療 眼・視覚 歯科口腔 皮膚 耳鼻咽喉 臨床実習Ⅲ 研究室研修	婦人科と産産期 精神 形成・組織再建 成長と発達 人の死・死と法 放射線診断と治療 臨床薬理と漢方 症候と診断の基礎 PBL 医療安全 チーム医療 地域医療・総合診療 臨床実習入門 総合教育演習Ⅰ	臨床実習Ⅳ	臨床実習Ⅴ 総合教育演習Ⅱ、Ⅲ
PS 専門知識に基づいた問題解決能力	●人体の構造と機能の基礎を説明できる ●単なる暗記ではなく、理解に基づく学修を実践できる ●身近な健康問題を基礎知識で理解し、説明できる	●人体の構造と機能を体系的に説明できる ●正常構造と機能が、病理理解の基礎であることを説明できる ●基本的な医学知識を用いて、症状や異常所見について考察できる	●病態生理、各臓器における疾患の病因・病態・症状・検査・治療の基本構造を説明できる ●代表的な症候から鑑別を考える過程を説明できる ●基礎医学と臨床医学の知識を関連づけて症例を考察できる	●主要症候から鑑別と初期対応を説明できる ●代表的疾患の診断から治療までの基本的な流れを説明できる ●模擬症例に対して、医学的問題点を整理し、論理的に考察できる	●病歴、身体所見、検査結果を整理し、主要な問題点を指導医とともに抽出できる ●鑑別診断を挙げ、根拠を説明できる ●診断・治療方針について、指導医の指示のもとで適切に考察し提案できる	●担当患者の情報を統合し、鑑別診断と対応方針を指導医のもとで整理できる ●代表的疾患や緊急性の高い病態について、初期対応の流れを実践できる
科目名	正常と病理Ⅰ 臨床医学入門 臨床実習Ⅰ	人体の構造 生体の機能と薬物 正常と病理Ⅱ 微生物と感染症Ⅰ 免疫と疾患Ⅰ 脳神経Ⅰ 脳神経Ⅰ実習 臨床実習Ⅱ	循環器 呼吸器 消化器 内分泌代謝 脳神経Ⅱ 血液とリンパ 微生物と感染症Ⅱ 高齢者医療 臨床腫瘍 臨床検査 免疫と疾患Ⅱ 社会と医学・行動科学 社会と医学・行動科学実習 腎泌尿器	婦人科と産産期、 精神 形成・組織再建 成長と発達 人の死・死と法 放射線診断と治療 臨床薬理と漢方 症候と診断の基礎 PBL 医療安全 チーム医療 地域医療・総合診療 臨床実習入門 総合教育演習Ⅰ	臨床実習Ⅳ	臨床実習Ⅴ 総合教育演習Ⅱ、Ⅲ

各学年のアウトカム【令和8(2026)年度以降入学者】

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
			運動器			
			救急災害・被ばく医療			
			リハビリテーション			
			麻酔・緩和医療			
			眼・視覚			
			歯科口腔			
			皮膚			
			耳鼻咽喉			
			臨床実習Ⅲ			
			研究室研修			
IT 情報・科学技術を活かす能力	●情報リテラシー教育を通じて、レポート作成や文献検索ができる ●個人情報の取り扱い、SNS利用、情報モラルについて基本的なルールを説明できる ●医療や医学研究において、情報技術が果たす役割の概要を説明できる	●文献検索データベースや電子教材を活用し、必要な情報を適切に収集できる ●情報の信頼性(査読の有無など)を意識して学修できる ●医療情報の取り扱いに関する倫理的配慮の重要性を説明できる	●データベースやガイドラインの検索と整理ができる ●複数の情報源を比較し、情報の妥当性や信頼性を考慮して学修に活用できる ●電子カルテや医療情報システムの基本的な役割と意義を説明できる	●複数の情報源を比較し、情報の妥当性や信頼性を考慮して学修に活用できる ●電子カルテや医療情報におけるセキュリティと倫理的配慮の重要性を説明できる	●電子カルテや検査システムを適切に使用し、必要な診療情報を収集・整理できる ●臨床的疑問点について、ガイドラインや文献データベースを用いて調べることができる ●医療情報の取り扱いにおけるセキュリティと倫理的配慮を実践できる	●電子カルテや医療情報システムを適切に使用し、必要な情報を収集・整理できる ●臨床的疑問点について、文献やガイドラインを検索し、要点をまとめて共有できる ●医療情報の取り扱いにおけるセキュリティと倫理を常に意識して行動できる
科目名	医療行動科学Ⅰ、Ⅱ	医用統計	研究室研修	症候と診断の基礎	臨床実習Ⅳ	臨床実習Ⅴ
	臨床医学入門	臨床実習Ⅱ	社会と医学・行動科学実習	PBL		総合教育演習Ⅱ、Ⅲ
	医の倫理と原則		臨床実習Ⅲ	医療安全		
	医学・生命科学入門			チーム医療		
	臨床実習Ⅰ			臨床実習入門		
				総合教育演習Ⅰ		
CS 患者ケアのための診療技能	●医療現場における医療者の役割を理解できる ●医療面接や診察行為がどのように行われているかを観察し、その意義を説明できる ●将来習得すべき診療技能の全体像を理解できる	●基礎的な診察手技や医療面接の流れについて、講義・実習を通じて説明できる ●将来必要となる診療技能(問診、診察、記録)の全体像を理解できる ●臨床実習に向けて、必要な態度・準備について説明できる	●医療面接、バイタルサイン測定、身体診察の流れを説明できる ●問診から問題点を整理する基本的な手順を実践できる	●基本的診療技能を実践できる ●診療チームの一員として診療行為に参加できる準備が整っている ●感染対策、医療安全に配慮した行動を実践できる	●指導医の下で基本的な身体診察を適切に実施できる ●基本的な医療手技について、見学・補助・一部実施ができる ●感染対策と医療安全に配慮した行動を主体的に実践できる	●指導医の下で、医療面接、身体診察、基本的検査・処置を適切に実施できる ●病棟・外来において、患者対応や診療補助を主体的に行うことができる ●感染対策と医療安全に十分配慮した行動を常に実践できる
科目名	医療行動科学Ⅰ、Ⅱ	臨床実習Ⅱ	臨床実習Ⅲ	症候と診断の基礎	臨床実習Ⅳ	臨床実習Ⅴ
	臨床医学入門		研究室研修	PBL		総合教育演習Ⅱ、Ⅲ
	医の倫理と原則			医療安全		
	臨床実習Ⅰ			チーム医療		
				臨床実習入門		
				総合教育演習Ⅰ		
CM コミュニケーション能力	●相手の話を傾聴する姿勢、分かりやすく伝える姿勢の重要性を説明できる ●患者・家族・教職員に対して、礼節をもった適切な言葉遣いに対応できる ●コミュニケーションが医療の安全と質に直結することを理解できる	●基本的なコミュニケーション技法(傾聴、共感、要約等)を説明できる ●他者の意見を尊重しながら議論に参加できる ●患者や医療者との間で、誤解やトラブルが生じる可能性を理解する	●患者に対する説明や質問の仕方について説明できる ●患者・医療者双方の立場を意識したコミュニケーションを理解できる ●医療チーム内での情報共有の重要性を理解できる	●患者に対して、分かりやすく丁寧な言葉で説明や質問を行うことができる ●患者の不安や疑問に配慮した対応を説明できる ●医療チーム内で、必要な情報を適切に報告・共有できる	●担当患者や家族に対して、指導医の指示のもとで適切な言葉遣いと態度で対応できる ●患者の訴えや不安を傾聴し、要点をまとめて指導医に報告できる ●医療チーム内で、必要な情報を適切に共有できる	●患者や家族に対して、状況に応じた分かりやすい説明と配慮ある対応ができる ●患者の訴えや問題点を整理し、医療チーム内で適切に報告・共有できる ●多職種と円滑に意思疎通を図り、医療チームの一員として行動できる
科目名	医療行動科学Ⅰ、Ⅱ	人体の構造実習	臨床実習Ⅲ	症候と診断の基礎	臨床実習Ⅳ	臨床実習Ⅴ
	臨床医学入門	生体の機能と薬物実習	研究室研修	PBL		総合教育演習Ⅱ、Ⅲ
	医の倫理と原則	臨床実習Ⅱ		医療安全		
	医学・生命科学入門			チーム医療		
	臨床実習Ⅰ			臨床実習入門		
				総合教育演習Ⅰ		
IP 多職種連携能力	●医師以外にも多様な医療専門職が医療に関わっていることを説明できる ●職種により異なる役割と専門性を持っていることを理解できる	●各専門職(看護師、薬剤師、リハビリ職等)の役割を説明できる ●多職種が協働することの意義と、それぞれの専門性の違いを説明できる	●医療は、多職種によるチーム医療で成り立っていることを、具体例を挙げて説明できる ●各専門職の役割と責任の違いを理解し、医師の役割について説明できる ●診療チームの一員として適切に行動するために必要な姿勢を説明できる	●臨床実習、多職種と協働する意義と基本姿勢を説明できる ●各職種の役割を尊重し、医師としてどのに関わるべきかを説明できる ●チームの一員として、指示・報告・連絡・相談の重要性を説明できる	●多職種スタッフと協働して診療していることを理解し、説明できる ●各専門職の役割を理解し、尊重した態度で接することができる ●カンファレンスや回診に参加し、多職種連携の実践ができる	●多職種の役割と専門性を理解し、お互い尊重しながらチームの一員として行動できる ●カンファレンスや回診に参加し、治療方針決定に主体的に関与できる ●チーム医療におけるリーダーとしての医師の役割と責任を実践できる
科目名	医療行動科学Ⅰ、Ⅱ	人体の構造実習	臨床実習Ⅲ	症候と診断の基礎	臨床実習Ⅳ	臨床実習Ⅴ
	臨床医学入門	生体の機能と薬物実習	研究室研修	PBL		総合教育演習Ⅱ、Ⅲ
	医の倫理と原則	臨床実習Ⅱ		医療安全		
	臨床実習Ⅰ			チーム医療		
				臨床実習入門		
				総合教育演習Ⅰ		

各学年のアウトカム【令和8(2026)年度以降入学者】

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
SO 社会における医療の役割の理解	●日本の医療制度の概要と医療が社会に果たす役割を理解できる ●地域医療、公衆衛生、予防・防災医療の概念の基本を説明できる	●医師の専門性と社会的責任について説明できる ●医療資源は有限であり、地域における医療の公平性・効率性が重要であることを理解できる	●日本の医療制度、保険制度、公衆衛生の基本構造を説明できる ●医療の進歩が社会に与える影響について説明できる ●医師として社会的責任を果たすことの重要性を説明できる	●医療の高度化・専門化が社会にもたらす影響について説明できる ●医師として法令・社会規範を遵守する必要性を説明し、実践できる ●人の死ならびに死に関する社会制度について理解できる	●実習を通じて、地域医療、急性期医療、慢性期医療の役割の違いを説明できる ●医師として社会的責任を果たすことの重要性を実感し、具体的に説明できる ●医療資源の制約の中で医療が提供されている現実を理解できる	●地域医療、急性期医療、慢性期医療、在宅医療の違いを踏まえた医療が実践できる ●医師は、社会的責任と公共性を担う立場にあることを自覚して行動できる
科目名	医療行動科学Ⅰ、Ⅱ	人体の構造実習	社会と医学・行動科学	症候と診断の基礎	臨床実習Ⅳ	臨床実習Ⅴ
	臨床医学入門	生体の機能と薬物実習	社会と医学・行動科学実習	PBL		総合教育演習Ⅱ、Ⅲ
	医の倫理と原則	臨床実習Ⅱ	臨床実習Ⅲ	医療安全		
	臨床実習Ⅰ		研究室研修	チーム医療		
				人の死・死と法		
				臨床実習入門		
				総合教育演習Ⅰ		

各学年のアウトカム【令和元(2019)年度～令和7(2025)年度入学者】

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次
I. プロフェッショナルリズム	●医師としてのプロフェッショナルリズムの本質を理解できる。 ●インフォームドコンセントについて説明できる。 ●医師の社会的責任を自覚し、将来医師になる者としての自らの立場の重要性を理解できる。 ●たゆまず自己研鑽し続けるプロフェッショナルとしての基本的姿勢を身につける。 ●他者を尊重し、常に良好なコミュニケーションを築くよう努めることができる。	●礼節（服装、態度、言葉遣い、行動）をわきまえている。	●個人情報保護の重要性を理解し、守秘義務を守ることができる。	●診療現場において適切な服装、態度、言葉遣い、行動をとることができる。 ●医師法を含む医療関連法規を理解し、順守できる。 ●医師のプロフェッショナルリズム（社会的責任・自己研鑽・他者への配慮）を意識した医学知識・臨床技術の学習を通じ、臨床的判断力の醸成に努めることができる。	●患者・家族と信頼関係を築くことができる。 ●利益相反について理解し、職業上発生する利害に適切に対処できる。	●患者・家族の価値観や社会的背景に配慮し、対応できる。
科目名	臨床医学入門 医の原則 基礎人体科学演習	解剖学実習 神経科学実習 地域医療入門	社会医学 外科学概論 社会医学実習	法医学 症候学 医療安全学 臨床実習入門	臨床実習I	臨床実習II 総合教育演習III
II. 医学的知識	●社会、文化、自然、生命に関する知識を有する。 ●人間・科学・医学の観点から倫理を理解する。 ●物質代謝や生命活動の基盤を説明できる。 ●各器官系の組織像を説明できる。	●人体の構造と機能について説明できる。 ●病原微生物と生体防御について説明できる。 ●基本的病態の発生機序を説明できる。	●主要な疾患の病理学的変化について説明できる。 ●薬力学、薬物動態について説明できる。 ●社会医学の意義とその実践方法を説明できる。 ●重要な疾患における疫学、症候、病因、病理、病態、診断、治療、予後に関する知識を説明できる。	●臨床的に重要な疾患における知識を包括的に理解し、基礎医学の知識と関連付けて説明できる。 ●法医学の知識を有し、社会的意義を説明できる。	●基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を医療・保健活動に応用することができる。	●保健・医療に関する課題を、疾病の発生状況、資源、制度、環境、人口動態の観点から説明できる。
科目名	教養教育 医の原則 医用システム工学概論 生化学 組織学	解剖学 生理学 免疫学 神経科学 病理学 微生物学	薬理学 社会医学 消化器内科学・外科学 循環器内科学・外科学 内分泌・代謝学 感染症学	血液内科学 周産期医学 臨床薬理・和漢薬学 整形外科学 リハビリテーション医学 麻酔科学・緩和医療学	臨床実習I	臨床実習II 総合教育演習II 総合教育演習III
		薬理学 被ばく医療学	臨床免疫学 神経精神医学 小児科学 婦人科学 神経内科学 腎臓内科学 麻酔科学・緩和医療学 放射線診断学	放射線腫瘍学 臨床腫瘍学 皮膚科学 泌尿器科学 眼科学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 脳神経外科学 歯科口腔外科学 形成外科学 救急・災害医学 臨床検査医学 小児外科学 法医学 総合教育演習I		

各学年のアウトカム【令和元(2019)年度～令和7(2025)年度入学者】

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次
III. 問題対応能力	●教科書や論文、検索情報をもとに問題点を抽出できる。	●得られた情報を統合し、客観的・批判的に自分の考えを表現できる。	●適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。	●患者のプロブレムを発見し、重要性・必要性を順位付けできる。 ●患者・家族、診療チーム・ケアスタッフの意見を尊重しながら、節度を持ってEBMの技術を用いることができる。	●患者のプロブレムを解決する具体的方法を発見し、課題を解決できる。	●患者のプロブレムに対して、指導医や他職種と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。
科目名	地域学ゼミナール（教養教育） 組織学実習 基礎人体科学演習 臨床医学入門	医用統計学 解剖学実習 生理学実習 生化学実習 神経科学実習 微生物学実習	社会医学実習 病理学実習 薬理学実習 研究室研修	症候学 PBL 臨床検査医学 病理診断学 医療安全学 臨床実習入門 総合教育演習I	臨床実習I	臨床実習II 総合教育演習II 総合教育演習III
IV. 診察技能と患者ケア	●学生や教員を尊重し適切な行動をとることができる。	●医師の義務と裁量に関する基本的態度を説明できる。	●患者が心理・社会背景を含む多彩な問題を抱えていることが理解できる。	●病歴を適切に聴取することができる。 ●基本的な身体診察ができる。 ●臨床推論の重要性を理解できる。	●患者から情報収集を行い、臨床推論によって適切な鑑別診断が行える。	●重要な疾患の適切な治療計画を立てられる。 ●診療チームの一員として救急医療や慢性期医療に参画できる。
科目名	基礎ゼミナール 組織学実習 臨床医学入門 医学英語I	解剖学実習 神経科学実習 地域医療入門	神経精神医学 小児科学 婦人科学 麻酔科学・緩和医療学	医学英語IV PBL 症候学 救急・災害医学 臨床検査医学 病理診断学 臨床実習入門	臨床実習I	臨床実習II 総合教育演習III
V. コミュニケーション能力	●口頭・文書で自分の考えを人に伝えることができる。	●コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。	●わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。	●患者・家族の話を傾聴し、共感することができる。 ●患者・家族の精神的・身体的苦痛に配慮できる。	●患者の心理・社会的背景をや自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。 ●わかりやすい症例提示ができる。	●患者の心理・社会的背景を踏まえながら患者・家族と良好な関係を築き、意思決定を支援することができる。
科目名	基礎ゼミナール 医学英語I 組織学実習 臨床医学入門	医学英語II 解剖学実習 生理学実習 生化学実習 神経科学実習 微生物学実習	医学英語III 研究室研修	医学英語IV PBL 医療安全学 臨床実習入門	臨床実習I	臨床実習II 総合教育演習III
VI. チーム医療の実践	●グループ学習において自分の役割を理解できる。 ●協力・共同の価値を理解し、相手を尊重したコミュニケーションをとることができる。	●グループ学習においてリーダーとしての役割を果たす。	●多職種からなる診療チームの機能と連携を説明できる。	●自分の能力の限界を認識し、必要に応じて他の医療従事者に援助を求めることができる。 ●患者・家族への対応、チーム医療・多職種連携を行う際に重要となる自らの姿勢に気づくことができる。	●診療チームの構成や各構成員の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。	●保健・医療・福祉・介護等、患者に関わる全ての領域の人々の役割を理解し、連携することができる。
科目名	地域学ゼミナール（教養教育） 基礎人体科学演習 臨床医学入門	解剖学実習 神経科学実習 生理学実習 生化学実習	社会医学 社会医学実習 外科学概論	リハビリテーション医学 PBL 臨床薬理・和漢薬学 医療安全学	臨床実習I	臨床実習II

各学年のアウトカム【令和元(2019)年度～令和7(2025)年度入学者】

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次
		微生物学実習		臨床実習入門		
VII. 医療の質と安全の管理	●医療上の事故について説明できる。	●医療関連感染症について説明できる。	●医療安全の基本的予防策を概説できる。	●医療上の事故等が発生したときの状況や緊急処置について報告することができる。	●医療上の事故等や医療関連感染症等に遭遇した際に、その対応方法に関する議論ができる。	●患者及び医療者にとって、良質で安全な医療を提供できる。
科目名	医の原則 医用システム工学概論	被ばく医療学 微生物学実習 微生物学	外科学概論 麻酔科学・緩和医療学	医療安全学 臨床検査医学 臨床実習入門	臨床実習I	臨床実習II 総合教育演習III
VIII. 社会における医療の実践と国際的視野	●地域が抱える課題を理解し、その解決方法に関する議論ができる。 ●自分と周囲の身近な人との関係性の中に「社会」の基本が存在することに気づき、社会を身近に実感することができる。	●かかりつけ医等の役割やプライマリ・ケアならびに地域医療の必要性を理解できる。	●地域医療に積極的に参加・貢献する姿勢を有する。	●英語により医学・医療に関する情報を入手し、発信できる。 ●患者背景へのアプローチや地域・社会の観察を行うための方法を通じ、他者と共感することができる。 ●自ら認識した地域・社会の課題への対応策を使命感・郷土愛に基づいて発案することができる。	●患者の文化的背景を理解し、多様性を尊重した医療を実践できる。	●医療人としての社会的役割を担い、地域とともに創造し、世界に向かって発信することができる。
科目名	地域学ゼミナール（教養教育） 臨床医学入門	地域医療入門 医学英語II	社会医学 社会医学実習 医学英語III 小児科学	医学英語IV PBL 法医学 臨床実習入門	臨床実習I	臨床実習II
IX. 科学的探究	●医学研究の必要性について理解できる。	●医学研究の社会的意義について説明できる。	●研究活動に参加し、研究発表や論文作成ができる。 ●研究倫理指針を理解し、遵守できる。	●基礎医学あるいは臨床医学の講義・実習で得た知識をもとに、疾患の病態解析ができる。	●患者や疾患の分析をもとに、最新の情報を検索・統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。	●抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し、問題解決に向けた研究活動に参加できる。
科目名	組織学実習 基礎人体科学演習	解剖学実習 神経科学実習 生化学実習 生理学実習 微生物学実習 医用統計学	研究室研修 医学英語III 社会医学実習 病理学実習 薬理学実習	PBL 臨床検査医学 病理診断学 臨床実習入門 総合教育演習I	臨床実習I	臨床実習II 総合教育演習II
X. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	●必要な情報を検索することができる。 ●進歩する医学に合わせ、自らも成長し続ける姿勢の重要性に気づくことができる。	●課題を解決するための方法について考えることができる。	●基礎・臨床医学の知識・技術を用い、研究活動に参加することができる。 ●臨床的知識や技術の修練に積極的に取り組むことができる。	●臨床的知識や技術の修練に積極的に取り組むことができる。 ●省察と他者との意見共有を重ねながら、謙虚な姿勢で学び続けることの価値を認識できる。	●臨床実習で経験したことを省察し、自己の課題を明確にすることができる。	●医師としてのキャリアを継続させ、生涯にわたり自己研鑽を行う意欲を有する。
科目名	基礎ゼミナール 基礎人体科学演習 組織学実習 臨床医学入門	解剖学実習 生理学実習 生化学実習 神経科学実習 微生物学実習	研究室研修 社会医学実習 病理学実習 薬理学実習	PBL 医療安全学 臨床実習入門 総合教育演習I	臨床実習I	臨床実習II 総合教育演習II

【弘前大学医学部医学科の使命】

教育目的

学部は、高度な知識及び技術と科学的素養を身に付け、豊かな人間性をもって医学・医療に貢献する人材の育成を目的とする。

医学科における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 豊かな人間性と高度の医学知識に富み、広い視野と柔軟な思考力をもって社会的役割を的確に果たすことができる医師及び医学研究者を養成する。
- (2) 常に進歩を続ける医学を効果的に教育するためのカリキュラムを整備し、具体的な到達目標を明示することによって、学生が自主的に学習できるような教育を行う。
- (3) 明確な目的意識と使命感を持った医師及び医学研究者を養成するために、学生が深く真理を探究し、人間性と社会性を高めることのできる教育を行う。
- (4) 国際水準の基礎的、かつ、応用的な医学研究を推進するとともに、高度で先端的な医療を地域社会と連携して実践する。

教育目標

・カリキュラム・ポリシー

医学科は、国際認証に相応しい医学教育に基づき、学生の知性ならびに人間性・社会性を育むカリキュラムを提供するという観点から、教育課程の編成・実施方針を次のように定めます。

1. 教育課程の編成・実施等

基本的な臨床能力及び基礎的な医学研究能力を備え、生涯にわたり医療、教育、保健・福祉活動を通じて社会に貢献し、医学の発展に寄与することができる人材を養成することを目指し、以下のような学習を実施します。

- 学生に国際認証に対応した医学的専門知識と技能を体系的に教授することで、医療・医学への洞察を深化させる力を養う。
- 専門基礎科目により、学生に人類の叡智たる諸学問の構造を俯瞰する機会を提供することで、複眼的思考および多元的価値観に立脚した省察を促す。これにより、高度先端医療や地域医療が抱える複雑な問題の本質を見通す力を養う。
- 専門科目の演習・実習科目により、学生に高度先端医療や地域医療の実情や問題の複雑さに触れる機会を提供する。これにより、学生が個人およびチームとして問題の解決に挑戦できる力を養う。
- 専門科目のコア科目により、学生に医学的専門知識と技能を医療・医学の問題解決に応用したり、高度な学識を活かして学術的問題の解決に取り組んだりする機会を提供する。これに加えて各専門領域の深い見識と医療倫理・医学倫理も、実践をとおして培う。
- 診療参加型実習(臨床実習Ⅰ・Ⅱ)を主体に、学生が医療現場の一員として充実した大学生活を送るとともに、より良い社会の実現に貢献していくことができるように、学生の探究の習慣を確立させる。

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促す。卒業時に修得しておくべき能力（卒業時コンピテンシー）が実践できるように各学年のアウトカムを作成して、カリキュラムを構築する。
- (2) 主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行う。
- (3) 自ら課題を見出し、その解決に向けて探究を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けさせるため、学生が主体となる能動的な授業も取り入れる。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPAを用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。
- (2) 知識、技能及び態度を組み合わせた多面的な評価により、学習成果を評価する。
- (3) 評価の方法には、総括的評価に加えて、各学年のアウトカムに対する形成的評価が含まれる。

・ディプロマ・ポリシー

医学科では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程にそって医学的専門知識と技能を習得するとともに、人間の尊厳を希求し、医学の発展の一翼を担うために、求められる社会的役割を的確に果たすことができる三つの素養を身に付けたものに対して、学士（医学）の学位を授与します。

具体的には、次の目標に到達していることが学位授与の条件となります。

- 豊かな人間性と高度な医学の専門知識を身に付け、人間的・科学的観点から社会の要請を見通す力を身に付けていること。
- 広い視野と柔軟な思考力を基盤に、医療・医学の問題を解決していく実践的な力を身に付けていること。
- 専門性を生かした国際基準の基礎的かつ、応用的な医学・医療を常に学修し、生涯にわたり自らを成長させ続ける力を身に付けていること。



弘前大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー

【令和6（2024）年度以降入学者】

弘前大学医学部医学科は卒業時に修得しておくべき能力（アウトカム）として卒業時コンピテンシー（10領域）及び卒業時コンピテンシー（59項目）を規定しています。

PR: プロフェッショナリズム(Professionalism)

人の命と健康を守るという医師の職責を理解し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたり、医師としての道を究めていくことができる。

1. 卓越した臨床能力と高い倫理感を持ち、患者の利益を第一に追求し、公共の福祉に貢献することが医師の職責であることを理解できる。
2. 医療職として適切な服装、態度、言葉遣い、行動をとることができる。
3. 豊かな教養を持ち、誠実かつ思いやりを持つ行動できる。
4. 医師と患者・家族の信頼関係を築き、社会から信頼される医師を目指すことができる。
5. 患者・家族の価値観や社会的背景に配慮し、対応できる。
6. 患者情報の重要性を理解し、守秘義務を遵守できる
7. 医師法を含む医療関連法規を理解し、遵守できる。
8. 利益相反について理解し、職業上発生する利害に適切に対処できる。

GE: 総合的に患者・生活者をみる姿勢(Generalism)

患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、柔軟に自身の専門領域にとどまらずに診療を行い、個人と社会のウェルビーイングを実現することができる。

1. 全人的な視点とアプローチにて専門領域にとどまらない姿勢で臨床実践に関与できる。
2. 地域の実情に応じた医療・保健・福祉・介護の現状と課題を理解し、プライマリ・ケアの実践、ヘルスケアシステムの質の向上に貢献できる。
3. ライフサイクル（胎児期～終末期）の視点で患者・家族・生活者に起こり得る精神・社会・医学的な問題に関与できる。
4. 文化的・社会的文脈のなかで生成される健康観や人々の言動・関係性を理解し、文化人類学・社会学の視点から臨床実践ができる。

LL: 生涯にわたって共に学ぶ姿勢(Lifelong Learning)

安全で質の高い医療を実践するために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたり自律的に学び、積極的に教育に携わることができる。

1. 生涯学習続ける価値観を持ち、学修・経験したことを省察し、自己の課題を明確にできる。
2. 自身の職業観を涵養しながら、主体的にキャリアを構築できる。
3. 医学知識が常に変化することを認識し、現時点での最善の医学情報にアクセスできる。
4. 医師・医学生に限らず、同僚や後輩を含む医療者への教育に貢献できる。

RE: 科学的探究(Research)

医学・医療の発展のための医学研究の重要性を理解し、科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動に関与して医学を創造することができる。

1. リサーチマインドを涵養し、研究のオリジナリティの重要性を認識できる。
2. 医療の実践が基礎・臨床・社会医学の研究に基づいていることを理解できる。
3. 医学論文（英語）を読んで概要を理解できる。
4. 自身の関心を「問い」とし、研究案を作り、データを適切に管理できる。
5. 自身の研究を論文や学会発表等の形にまとめ、わかり易くプレゼンテーションでき、他の研究者の発表に対して質問や意見を述べることができる。
6. 捏造、改ざん、盗用等を含め研究不正の類型を説明することができ、研究不正を行わず、適切に研究を遂行できる。

PS: 専門知識に基づいた問題解決能力(Problem Solving)

専門知識を身に付け、根拠に基づいた医療(Evidence-based medicine(EBM))を基盤に、経験も踏まえながら、患者の抱える問題を解決することができる。

1. 基礎医学として、生命現象の科学、個体の構成、機能、反応、病因と病態について理解できる。
2. 各器官の正常構造と機能を理解し、疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療の知識を臨床的に使用できる。
3. 器官横断的で全身に及ぶ生理的变化を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療の知識を臨床的に使用できる。

IT: 情報・科学技術を活かす能力(Information Technology)

発展し続ける情報化社会を理解し、人工知能等の情報・科学技術を活用しながら、医学研究・医療を実践することができる。

1. 情報・科学技術を医療に活用することの重要性と社会的意義を理解できる。
2. 情報・科学技術に関連する規制（法律、ガイドライン等）の概要を理解できる。
3. 電子カルテ等の医療情報の管理・保管の原則を理解し、関連する法律、倫理基準、個人情報保護のための規定等を遵守できる。
4. ソーシャルメディア（インターネット、SNS 等）の利用において、医療者として相応しい情報発信の在り方を理解し、実践できる。
5. 情報・科学技術を理解し、自身の学修や医療へ適応する姿勢を体得できる。
6. 診療、学修に有効なICT技術やデジタルコミュニケーションスキルを修得できる。

CS: 患者ケアのための診療技能(Clinical Skills)

患者の苦痛や不安感に配慮し、確実に信頼される診療技能を磨きながら、患者中心の診療を実践することができる。

1. 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用い、病歴を適切に聴取し、情報を取捨選択し、整理できる。
2. 全ての情報を統合しながら問題志向型医療記録を作成し、臨床推論を行うことができる。
3. 診断や治療に必要な検査計画を立案し、検査結果を解釈することができる。
4. 専門的診療が必要かどうかを考慮し、治療計画を立案できる。
5. 代表的な疾患における患者指導の教育計画を立案できる。
6. 患者・家族、医療スタッフと連携し、検査手技、治療手技、救急・初期対応、書類作成の下書きを作成し、治療カンファレンスに報告できる。
7. 実施された医療は省察し、各種カンファレンスにて説明できる。
8. 医療を改善する重要性を理解し、繰り返し評価することができる。
9. 医療従事者に求められる健康管理、職業感染対策を実践できる。
10. 患者安全のための管理体制や感染症に関連した役割を理解し対処できる。
11. 診療録の重要性を理解し、適切に記載し、取り扱うことができる。
12. インシデントが発生した際に、緊急対応や記録、報告ができる。

CM: コミュニケーション能力(Communication)

患者及び患者に関わる人々と、相手の状況を考慮した上で良好な関係性を築き、患者の意思決定を支援して、安全で質の高い医療を実践することができる。

1. 患者のプライバシーに配慮できる。
2. 言語的コミュニケーションにて、良好な人間関係を築くことができる。
3. 非言語的コミュニケーション（身だしなみ、視線、表情、ジェスチャー等）を意識できる。
4. 患者や家族の話を傾聴し、精神的・身体的・社会的苦痛に十分配慮しながら、敬意を持った言葉遣いや態度で接することができる。
5. 患者や家族の多様性（高齢者、小児、障害者、LGBTQ、国籍、人種、文化・言語・慣習の違い等）に配慮してコミュニケーションをとり、分かりやすい言葉で説明できる。
6. 患者の心理的及び社会的背景を捉え、問題点を抽出・整理できる。
7. 医療の不確実性を理解した上で適切な行動や態度をとることができる。

IP: 多職種連携能力(Interprofessional Collaboration)

医療・保健・福祉・介護等、患者・家族に関わる全ての人々と良好な関係を築き、患者・家族・地域の課題を共有し、関わる人々と協働することができる。

1. 患者・利用者・家族に関連する情報について、多職種及び他の医療系学部の実生と共有できる。
2. 適切な診断・検査・治療のために、適切な施設・専門科・医師へ紹介できる。
3. 自他の役割や思考・行為・感情・価値観を踏まえ、協働する職種で信頼関係を構築し、自分の役割を全うできる。

SO: 社会における医療の役割の理解(Medicine in Society)

医療は社会の一部であるという認識を持ち、経済的な観点・地域性の視点・国際的な視野等も持ちながら、健康の代弁者として公衆衛生の向上に努めることができる。

1. 地域保健、産業保健、健康危機管理を理解できる。
2. 疫学と主な研究デザインを学び、医学・生物学の統計手法を理解できる。
3. 死の判定を理解し、死亡診断書・検案書を作成し、病理解剖、法医学解剖について理解できる。
4. 健康に関する問題について、多様性を尊重し、積極的に行動できる。
5. グローバルヘルスの役割や医療体制について概要を理解できる。
6. 健康観や人びとの言動・関係性を理解し、医療人類学・医療社会学の視点から臨床実践ができる。

2025年2月19日 医学科会議承認



弘前大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー

【令和元（2019）～令和5（2023）年度入学者】

弘前大学医学部医学科は卒業時に修得しておくべき能力（アウトカム）として卒業時コンピテンシー（10領域）及び卒業時コンピテンシー（66項目）を規定しています。

I. プロフェッショナリズム

人の命に関わり健康を守るという医師の職責を理解し、患者中心の医療を実践しながら、医師としての道を究めていくことができる。

1. 卓越した臨床能力と高い倫理性を基盤として、患者の利益を第一に追求し、公共の福祉に貢献することが医師の職責であることを理解できる。
2. 専門職にある者として適切な服装、態度、言葉遣い、行動をとることができる。
3. 豊かな教養と確固たる倫理観を身に付け、利他的かつ公正な態度で行動できる。
4. 診療現場において患者・家族と信頼関係を築くことができる。
5. 患者・家族の価値観や社会的背景に配慮し、対応できる。
6. インフォームドコンセントについて説明できる。
7. 個人情報保護の重要性を理解し、守秘義務を守ることができる。
8. 医師法を含む医療関連法規を理解し、順守できる。
9. 利益相反について理解し、職業上発生する利害に適切に対処できる。

II. 医学的知識

基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学、医療倫理に関する知識を修得し、それらを医療・保健活動に応用することができる。

1. 医学の基礎となる自然科学や倫理学に関する知識を有する。
2. 人体の構造と機能、生体防御、薬物動態について説明できる。
3. 生命の発生から成長、発達、加齢、死に至る過程を説明できる。
4. 人間の心理と行動について説明できる。
5. 基礎医学の知識を疾患の病因、病態、症候の理解に応用できる。
6. 重要な疾患について、疫学、症候、病因、病理、病態、治療法、予後に関する知識を有し、診療に応用できる。
7. 社会医学・法医学の知識を医療・保健活動に応用できる。
8. 保健・医療に関する課題を、疾病の発生状況、資源、制度、環境、人口動態などの観点から説明できる。

III. 問題対応能力

根拠に基づいた医療(evidence-based medicine <EBM>)を基盤に、経験も踏まえながら、幅広い症候・病態・疾患に対応できる。

1. 患者のプロブレムを発見し、重要性・必要性に照らして順位付けできる。
2. 患者のプロブレムの解決方法を見出し、課題を解決できる。
3. 患者のプロブレムに対して、指導医や他職種と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。
4. 適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。
5. 患者のプロブレムに関する国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。
6. 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。
7. 臨床経験を決められた様式に従って文書と口頭で発表できる。
8. 同僚や後輩に対して適切な助言や指導ができる。

IV. 診察技能と患者ケア

臨床技能を磨くとともにそれらを用い、患者の苦痛や不安感に配慮しながら、診療を実践できる。

1. 病歴を適切に聴取し、系統的かつ効率的な身体診察を行い、異常所見を見出し、臨床推論によって適切な鑑別診断が行える。
2. 診断や治療に必要な検査計画を立案し、検査結果を解釈することができる。
3. 重要な疾患の適切な治療計画を立てられる。
4. 診療録についての基本的な知識を修得し、問題志向型医療記録(problem-oriented medical record <POMR>)形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。
5. 患者の病状(症状、身体所見、検査所見等)、プロブレムリスト、鑑別診断、臨床経過、治療法の要点を提示し、診療チームの構成員と意見交換をすることができる。
6. 緊急を要する病態や疾患に関する知識を有し、診療チームの一員として救急医療に参画できる。
7. 慢性疾患や慢性疼痛の病態、経過、治療に関する知識を有し、医療を提供する場や制度に応じて、診療チームの一員として慢性期医療に参画できる。
8. 患者の苦痛や不安感に配慮しながら、就学・就労、育児・介護などの両立支援を含め患者・家族に対し誠実で適切な支援を行える。
9. 患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行える。

V. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえながら患者・家族と良好な関係を築き、意思決定を支援することができる。

1. コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
2. 患者・家族の話に傾聴し、共感することができる。
3. 患者・家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。
4. 患者に分かりやすい言葉で説明できる。
5. 患者の心理的及び社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。
6. 患者のプライバシーに配慮できる。
7. 患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。

VI. チーム医療の実践

保健・医療・福祉・介護等、患者に関わる全ての領域の人々の役割を理解し、連携することができる。

1. 診療チームの構成や各構成員(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職)の役割分担と連携・責任体制について説明できる。
2. 多職種からなる診療チームの一員として参加できる。
3. 自分の能力の限界を認識し、必要に応じて他の医療従事者に援助を求めることができる。

VII. 医療の質と安全管理

患者及び医療者にとって、良質で安全な医療を提供できる。

1. 医療上の事故等(インシデントを含む)に遭遇した際に、その対応方法に関する議論ができる。
2. 医療関連感染症(院内感染を含む)の原因及び回避する方法を概説できる。
3. 医療上の事故等(インシデントを含む)が発生したときの状況や緊急処置について報告することができる。
4. 医療安全の基本的予防策を概説し、指導医の指導の下に実践できる。
5. 標準予防策(standard precautions)の必要性を説明し、実行できる。

VIII. 社会における医療の実践と国際的視野

医療人として求められる社会的役割を担い、地域とともに創造し、世界に向かって発信することができる。

1. 地域が抱える課題を理解し、その解決方法に関する議論ができる。
2. かかりつけ医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を獲得できる。
3. 地域医療や災害医療に積極的に参加できる。
4. 地域住民に対する疾病予防、健康増進、安全確保のための活動に参加できる。
5. 患者の文化的背景を理解し、多様性を尊重した医療を実践することができる。
6. 英語により医学・医療に関する情報を入手し、発信できる。
7. 世界における疾病の動向や医療・保健問題のトピックスについて説明できる。
8. 社会福祉制度、社会保障制度、保険医療制度、医療経済について理解できる。

IX. 科学的探究

医学・医療の発展のための医学研究の必要性を理解し、批判的思考も身に付けながら、学術・研究活動に参画することができる。

1. 基礎医学の講義・実習で得た知識をもとに、診療で経験した病態の解析ができる。
2. 患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。
3. 抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し、問題解決に向けた研究活動(臨床研究、疫学研究、生命科学研究等)に参加できる。
4. 指導者の下で研究活動に参加し、研究発表や論文作成を行うことができる。
5. 生命倫理・研究倫理・臨床倫理に配慮した研究活動について理解できる。

X. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。

1. 生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。
2. キャリア開発能力を獲得する。
3. キャリアステージにより求められる能力に異なるニーズがあることを理解できる。
4. 臨床実習で経験したことを省察し、自己の課題を明確にすることができる。

弘前大学医学部（医学科）専門教育科目試験申合せ

令和 8 年 3 月 18 日
医 学 科 会 議 承 認

1. 受験資格

- (1) 試験を受けることのできる者は、所定の履修手続を行い、かつ、当該授業科目の各学期の授業時間数の 3 分の 2 以上を出席した者とする。
- (2) 統一試験の対象となる授業科目については、当該授業科目において実施される形成的評価の条件を満たさなければならない。

2. 試験科目

- (1) 試験は、弘前大学医学部規程（平成 16 年規程第 101 号。以下「規程」という。）別表第 1 に掲げる授業科目について行う。臨床実習については、関係講座が一定の単位を分担し、それぞれ独立した授業科目とみなして試験を行う。
- (2) 教育内容の体系性及び学修到達度を総合的に評価するため、複数の授業科目を対象として統合した試験を実施することがある。この試験を統一試験という。

3. 試験の時期

- (1) 授業が一つの学期で終了する場合は、当該学期末に試験を実施する。
- (2) 授業が複数の学期にまたがって行われる場合は、原則として各学期末に試験を実施する。
- (3) その他必要に応じて、中間試験を実施することがある。
- (4) 統一試験は、原則として前期又は後期の履修範囲を対象として学期末に実施する。

4. 試験の方法

試験は、筆記、口頭、レポート又は実技により行う。

5. 試験成績の評価

- (1) 試験の成績は、秀（100～90）、優（89～80）、良（79～70）、可（69～60）、不可（59以下）とし、不可は不合格とする。
- (2) 科目が複数の小科目で構成され、試験をそれぞれ実施する場合、各小科目の評価が 60 点以上でなければ、当該科目は合格としない。
- (3) 履修学生の親族（2 親等以内）が、当該授業科目担当代表教員の場合は、単独で試験成績の評価を行わないものとする。
- (4) 統一試験の成績は、当該試験の対象となる各授業科目の成績評価に用いるものとし、評価方法の詳細については別に定める。

6. 追試験

- (1) やむを得ない事情により試験を欠席した場合は、追試験願に病気又は事故等を証明する書類を添えて当該試験終了後 7 日以内に学部長に届け出なければならない。
- (2) 前号の届出があった場合は、教授会の議を経て追試験を行うことがある。
- (3) 統一試験についても、前 2 号の規定を準用する。

7. 再試験

- (1) 当該授業科目担当代表教員は、再試験を行うことがある。
- (2) 再試験は、原則 1 回とする。
- (3) 統一試験についても、再試験を行うことがある。

8. 進級

- (1) 規程別表第 1 の各年次に配当されている授業科目をすべて履修し、試験に合格しなければ進級

することはできない。

(2) 1科目であっても、出席回数不足もしくは試験未受験の場合は、進級することはできない。

9. 留級した場合の再履修

留級した場合の再履修については別に定める。

10. その他

4年次「総合教育演習Ⅰ（CBT, pre-CC, pre-CC OSCE）」については、受講前に留級が見込まれる場合には、履修（受験）できない。

附 則

この申合せは、平成7年4月1日から施行し、平成7年度入学者から適用する。

附 則

この申合せは、平成13年4月18日から施行する。

附 則

この申合せは、平成14年4月1日から施行する。

附 記

この申合せは、平成21年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、平成22年10月1日から実施する。

附 記

この申合せは、平成25年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、平成26年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、平成28年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、平成30年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、平成31年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、令和5年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、令和6年1月1日から実施する。

附 記

この申合せは、令和7年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、令和8年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、令和8年4月1日から実施し、令和8年度入学者から適用する。

令和7年度以前の入学者及び令和7年度以前の入学者の属する年次に編入学、転学又は再入学する者については、なお従前の例による。

弘前大学医学部（医学科）専門教育科目試験申合せ

令和7年11月19日
医学科会議承認

1. 受験資格

試験を受けることのできる者は、所定の履修手続を行い、かつ、当該授業科目の各学期の授業時間数の3分の2以上を出席した者とする。

2. 試験科目

試験は、弘前大学医学部規程（平成16年規程第101号。以下「規程」という。）別表第1に掲げる授業科目について行う。臨床実習については、関係講座が一定の単位を分担し、それぞれ独立した授業科目とみなして試験を行う。

3. 試験の時期

- (1)授業が一つの学期で終了する場合は、当該学期末に試験を実施する。
- (2)授業が複数の学期にまたがって行われる場合は、原則として各学期末に試験を実施する。
- (3)その他必要に応じて、中間試験を実施することがある。

4. 試験の方法

試験は、筆記、口頭、レポート又は実技により行う。

5. 試験成績の評価

- (1)試験の成績は、秀（100～90）、優（89～80）、良（79～70）、可（69～60）、不可（59以下）とし、不可は不合格とする。
- (2)科目が複数の小科目で構成され、試験をそれぞれ実施する場合、各小科目の評価が60点以上でなければ、当該科目は合格としない。
- (3)履修学生の親族（2親等以内）が、当該授業科目担当代表教員の場合は、単独で試験成績の評価を行わないものとする。

6. 追試験

- (1)やむを得ない事情により試験を欠席した場合は、追試験願に病気又は事故等を証明する書類を添えて当該授業科目試験終了後7日以内に学部長に届け出なければならない。
- (2)前号の届出があった場合は、教授会の議を経て追試験を行うことがある。

7. 再試験

- (1)当該授業科目担当代表教員は、再試験を行うことがある。
- (2)再試験は、原則1回とする。

8. 進級

- (1)規程別表第1の各年次に配当されている授業科目をすべて履修し、試験に合格しなければ進級することはできない。
- (2)前号にかかわらず、第2年次、第3年次及び第4年次への進級に際しては、不合格科目1科目の場合に限り、進級させることがある（仮進級）。ただし、演習・実習科目をすべて合格していなければ進級できない。
- (3)1科目であっても、出席回数不足もしくは試験未受験の場合は、進級することはできない。
- (4)第5年次から始まる臨床実習の履修に際しては、第2号にかかわらず第4年次後期までに配当されているすべての授業科目の単位を修得していなければならない。

9. 留級した場合の再履修

留級した場合には、当該学年に配当されている授業科目をすべて再履修の上、試験に合格しなければならない。ただし、教養教育科目、専門教育科目の専門基礎科目、演習・実習科目（6年次配当科目の臨床実習Ⅱを除く）で、すでに単位修得した科目についてはこの限りではない。

10. 仮進級した場合の不合格科目の取扱い

仮進級となった場合には、不合格になった授業科目について、試験を受け、それに合格しなければならない。試験の時期や実施方法については、授業科目担当代表教員が定める。

11. その他

4年次「総合教育演習Ⅰ」(CBT/PreCC/臨床実習前 OSCE)については、受講前に留級が見込まれる場合には、履修（受験）できない。

附 則

この申合せは、平成7年4月1日から施行し、平成7年度入学者から適用する。

附 則

この申合せは、平成13年4月18日から施行する。

附 則

この申合せは、平成14年4月1日から施行する。

附 記

この申合せは、平成21年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、平成22年10月1日から実施する。

附 記

この申合せは、平成25年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、平成26年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、平成28年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、平成30年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、平成31年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、令和5年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、令和6年1月1日から実施する。

附 記

この申合せは、令和7年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、令和8年4月1日から実施する。

弘前大学医学部医学科学士編入学に関する申合せ

令和 7 年 1 月 15 日医学科会議決定

(趣旨)

- 1 弘前大学医学部医学科学士編入学（以下「編入学」という。）に関する事項は、弘前大学学則（平成 16 年規則第 2 号）及びその他関連規程等で定めるもののほか、この申合せの定めるところによる。

(編入学年)

- 2 編入学の学年は、第 2 年次とし、時期は 4 月とする。

(修業年限)

- 3 修業年限は、5 年とする。

(在学期間)

- 4 在学期間は、第 2 年次にあつては 3 年を、第 3 年次及び第 4 年次並びに第 5 年次及び第 6 年次にあつてはそれぞれ通算して 4 年を超えることができない。ただし、すべての在学期間を通算して 10 年を超えないものとする。

(入学前の既修得単位の認定)

- 5 編入学者が入学前に大学等で修得した単位の認定は、次の各号に掲げる科目ごとに、それぞれ当該各号に規定する科目として審査のうえ行うものとし、認定された場合にあつては、当該科目について修得した単位とみなす。この場合において、成績の表記は、「認定」とする。
 - (1) 教養教育科目 弘前大学医学部規程（平成 16 年規程第 101 号。以下「規程」という。）別表第 1（第 4 条関係）医学科ア履修要件（卒業に要する単位数）に掲げる教養教育科目
 - (2) 専門教育科目 規程別表第 1 医学科イ専門教育科目及び単位配当表に掲げる科目のうち、備考欄に○印が付されていない科目

附 則

この申合せは、平成 29 年 4 月 1 日から実施し、平成 29 年度に編入学する者から適用する。

附 則

この申合せは、平成 31 年 4 月 1 日から実施し、平成 31 年度に編入学する者から適用する。

附 則

この申合せは，令和 7 年 4 月 1 日から実施し，令和 7 年度に編入学する者から適用する。

授業科目の履修成績に対する異議申立てに関わるガイドライン

平成26年12月24日 教育委員会決定

平成28年 4月 1日 教育委員会一部改正

平成28年10月 1日 教育委員会一部改正

令和元年10月23日 教育委員会一部改正

1. 趣旨

授業科目の履修成績に対する異議申立ての手続き等について、全学的なガイドラインを示す。

2. 異議申立ての手続き

- (1) 学部学生，大学院学生，科目等履修生，高大連携公開講座受講者（以下「学生等」という。）は，授業科目の履修成績に異議等があるときは，成績通知表配布開始日を含めて2週間以内に，授業科目を開講している各学部，各研究科，教養教育開発実践センター，国際連携本部（以下「各学部等」という。）の事務部に「授業科目の履修成績に対する質問書（別紙様式1）」を提出し，事務部は授業科目を担当した教員（以下「担当教員」という。）に確認する。
- (2) 学生等は，担当教員に確認した授業科目の履修成績に関する質問書についての説明を受けても，なお異議があるときは，各学部等の長に対して，「授業科目の履修成績に対する異議申立書（別紙様式2）」を提出することができる。
- (3) 各学部等の長は，必要に応じて，学務委員会等に調査を命ずる。
- (4) 学務委員会等は，当該学生等及び担当教員から意見を聴取するなどして調査を行い，その調査結果を，各学部等の長に報告する。
- (5) 各学部等の長は，担当教員に対して，授業科目の履修成績に対する異議申立てへの回答内容を報告する。
- (6) 各学部等の長は，学務委員会等における調査結果を踏まえ，当該学生等に対して，授業科目の履修成績に対する異議申立てへの回答を行う。
- (7) 実施に関して必要な事項については，各学部等で定めることができる。

3. 学生等への周知

各学部等においては，学生等が授業科目の履修成績に異議等がある場合の相談窓口等について，履修案内やガイダンスを活用するなどして，日頃から学生等への周知に努める。

履修成績に対する異議申立ての流れ

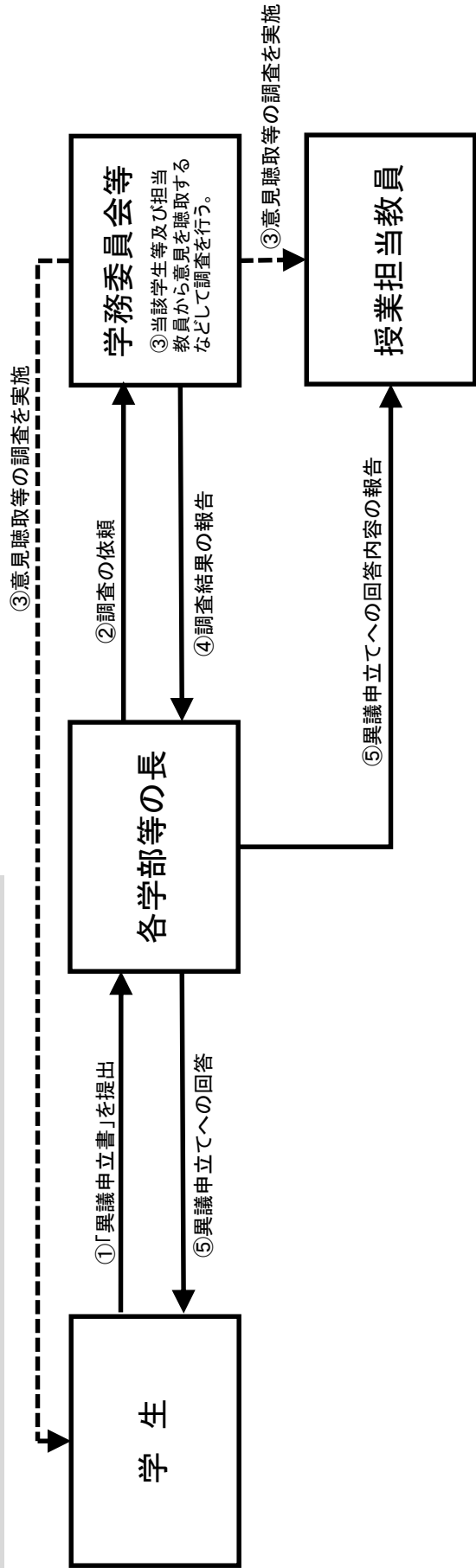
1. 成績評価に異議等がある場合

成績通知表配布開始日を含めて2週間以内に、授業科目を開講している各学部等の事務部に「授業科目の履修成績に対する質問書」を提出する。



2. 「質問書」への回答説明を受けてもなお異議がある場合

各学部等の長に「授業科目の履修成績に対する異議申立書」を提出する。



アンプロフェッショナルな学生の定義について

令和7年2月19日 医学科会議承認

以下をアンプロフェッショナルな学生の定義とする。

医療安全・医療倫理の面から、このままでは将来、患者の診療に関わらせることができないと考えられる学生

令和7年2月19日医学科会議

令和7年9月16日最終改正

1 アンプロフェッショナルな学生の報告の趣旨

令和4年11月18日公表された医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版では、「臨床実習の学修目標には、知識や臨床推論、臨床判断等だけではなく、診察や基本的臨床手技等の技能、医師のプロフェッショナリズム等の態度も含まれる。」ことが明記されており、態度評価を本学医学部医学科においても体系的な仕組みを構築し、実施する必要がある。特に同改訂版では、「医師として生涯にわたって研鑽していくことが求められる資質・能力としてプロフェッショナリズムが挙げられているが、特に臨床実習におけるアンプロフェッショナル（以下、「アンプロ」という。）な行動が問題となることがある。アンプロな行動とは医師として望ましい行動に反するだけでなく、患者安全のアウトカムにも影響しうることが示されており、またその後の研修以降のキャリアでも同じような問題を起こす可能性も指摘されている。プロフェッショナリズムについて低学年から学び身につけていく必要があるが、特に臨床実習では对患者、対多職種スタッフのみならず、教員や学生間も含めた観察可能な発言や行動について評価すべきである。」とされている。

近年、医学生として相応しくない言動をする学生の増加が全国的に問題となっており、本学医学部医学科においても例外ではない。本学医学部医学科においても、患者安全の観点から早急に教員、学生間でのアンプロな行動について具体的な行動を定義し共有するとともに、全学年における学生生活全般に亘り、学生の発言・行動を広く観察し、このままでは将来、医師として診療に従事させることができないと考えられる学生の情報を、学生指導・教育に携わる者が共有することが必要である。本取扱要領は、客観的な情報の収集と指導体制を構築することにより、当該学生の社会性や倫理性に関して再教育を行い、医学生として相応しい行動を取ることができるよう改善を図ることを目的とする。

2 アンプロフェッショナルな学生の定義

本学医学部医学科ではアンプロフェッショナルな学生とは、「医療安全・医療倫理の面から、このままでは将来、患者の診療に関わらせることができないと考えられる学生」と定義する（令和7年2月19日医学科会議制定）。なお、これらは、観察、評価可能な発言や行動であり、価値観や性格等ではないことに注意する。

具体的なアンプロフェッショナルな発言や行動を以下の通り、例示する。

- (1) 関わり (Involvement) における不足
遅刻や欠席、締め切りの不遵守、主体性がない、手抜きをする、チームワークがないなど。
- (2) 誠実さ (Integrity) の不足
不正行為、嘘をつく、盗用、データの捏造や改竄、詐欺、規則の不遵守など。
- (3) 相互関係 (Interaction) における不足
拙いコミュニケーション、ソーシャルメディアや個人情報の不適切な取り扱い、迷惑行為、プライバシー及び守秘義務の侵害、いじめ/差別的行為、セクハラなど。
- (4) 内省 (Introspection) の不足
フィードバックを避ける、自分の行動に対する洞察力がない、他者のニーズに敏感ではない、責任転嫁、フィードバックを受け入れないなど、が挙げられる。
また、重複するがアンプロフェッショナルな発言や行動を下記にも例示する。
- (5) 不適切な態度・行動の繰り返し
活動に参加しない、トレーニングに参加しない、臨床現場での学習に参加しない、事務手続き (Administrative tasks) を無視する、時間管理ができない、無断で欠席する、教育上のアドバイスを受け入れない、患者や同僚などへの継続する無礼、他者からの建設的なフィードバックから学ぶことができない、学習環境や臨床実習の場を混乱させる、臨床教員への挑戦的行動や臨床教員からの批判を受け入れない、反応しなければならぬ連絡を無視する。

以下については、懲戒案件に該当する可能性があるため、「3 アンプロフェッショナルな行為に対する報告レベル」におけるレベル3として対応する。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 良い医療行為を示すことができない
ソーシャルメディアの悪用、守秘義務の不履行、ケアや治療について故意に患者に間違ったことを伝える、患者からの同意を得ないことが不適切であることを知りながらそれに関与すること、性的、人種的及びその他のハラスメント、不適切な診察や一線を越えた行動、不法な差別など。(2) 薬物またはアルコールの誤用
飲酒運転、処方薬の乱用、飲酒により臨床業務、職場環境や教育環境を乱す、違法薬物の使用、不適切な過度の飲酒など。(3) 不正行為または剽窃
試験でのカンニング、授業での代返・他者がした活動を自分がしたと偽ること、自分が受けた試験の内容を他の学生に伝える、評価表での指導医のサインの捏造や、試験における不正行為など。(4) 職務上の役割以外の不正行為または詐欺
研究でのデータ捏造・改竄、金銭的詐欺、経歴詐称、書類偽造・資格詐称など。 |
|--|

- (5) 攻撃的な暴力や脅し
暴行、身体的暴力、いじめ、ハラスメント、ストーカー、オンラインでのいじめや
トロローリングなど。
- (6) その他の不適切行動または犯罪
違法薬物の所持・取扱い・提供、盗難、身体的暴力、無賃乗車、金融詐欺、児童ポ
ルノ、児童虐待またはその他の虐待、性的犯罪など。

3 アンプロフェッショナルな行為に対する報告レベル

- (1) レベル1：アンプロ行為を初めて見かけた。
当該学生に対し、適切なフィードバックを行う。調査後、アンプロと判定されない可
能性がある。
- (2) レベル2：アンプロ行為を初めて見かけたが重大な行為と考えられる又はアンプロ
行為のフィードバック後、同様の行為が繰り返される。
アンプロ行為の可能性があり、調査する必要がある。
- (3) レベル3：法律違反・懲戒レベル
即刻、「弘前大学学生の懲戒等に関する規程」に基づき、学生の懲戒を所掌する委員
会等に対応する必要があるため、所定の報告書様式にかかわらず、直ちに学務グループ
に報告すること。

4 アンプロフェッショナルな学生に対する対処方法

- (1) レベル1及び2への対処

① 教員による観察・評価

- 1) 関係教員等は2で示される定義に基づき、観察・評価を行う。アンプロと思われ
る行動については、適切にフィードバックを行う。その際に一方的なフィードバッ
クにせず、状況を確認する必要がある。
- 2) フィードバックを行った学生について、アンプロな行動が改善するか引き続き
観察・評価を行う。他の科目・診療科等へも情報の共有・引継ぎを行う。

② 報告・調査

- 3) 関係教員等は、アンプロと思われる行動について所定の様式により学務グルー
プに報告する。報告の際に、直接自身で観察した情報と間接的に得た情報を区別す
る。なお、本報告は、講義や各演習・実習等（早期臨床体験実習、研究室研修、臨
床実習Ⅰ・Ⅱ等）での知識や技能の評価とともに態度評価の一つとして6年間一貫
して管理を行う。なお、報告書の内容によっては、懲戒処分の対象と成り得る（レ
ベル3）。
- 4) 必要に応じて調査委員会を立ち上げて調査し、指導方針・再教育（講義や実習を
継続させるのか、再履修とするべきか）について検討する。成績評価に反映させる

場合は、妥当性について授業担当教員と協議の上、慎重に取り扱う。学務委員会に上申し審議する。

- 5) 調査委員会の構成員は医学部長が指名する。

③ 指導・再教育

- 6) 指導・再教育の際には、学務委員会で該当学生について精神疾患や発達障害、メンタルの不調、またその背景としての人間関係や家族の問題等についても配慮し、指導教員と連携し、適切なサポートが得られるようにする。特に繰り返し報告された場合や重大な案件では保護者等との情報共有を行う。

④ 改善状況の観察・再評価

- 7) 指導・再教育による改善状況、メンタリング、カウンセリング等について、定期的に調査委員会で再評価を行い、学務委員会に報告する。

(2) レベル3への対処

本取扱要領にかかわらず、「弘前大学学生の懲戒等に関する規程」に基づき対処する。

5 報告者

報告者は、指導教員、科目責任者、授業担当者、実習担当者、サークル顧問等をはじめとした学生教育・指導に携わる全教職員（医師、看護師、薬剤師、技師、事務職員等）、学生及び患者とする。なお、学生教育・指導に携わる全教職員には関連実習施設の全職員も含むこととする。

また、報告者の個人情報を適切に保護し、報告内容等が不必要に漏洩しないよう最大限の配慮を行うこととする。

6 報告書の提出先及び情報共有について

所定の様式に記載の上、学務グループへ提出する。なお、報告された事例については、個人情報に配慮した上で、調査委員会で定期的に検討する。

また、報告書及び事例に関する情報は、学務グループにおいて厳重に管理する。

なお、レベル3（学生懲戒規程に基づき処理した案件等）に関する情報の取扱はこの限りではない。

附 則

この要領は、令和7年9月16日から施行し、令和7年2月19日以降の報告に適用する。

アンプロフェッショナルな行為に関する報告書

1 報告書提出日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

2 学生の学年 _____ 年次

3 学生の学籍番号 _____ M

4 学生の氏名 _____

5 報告レベル レベル 1 ・ 2 ・ 3

※ 該当すると思われるレベルに丸印を付してください。

6 アンプロフェッショナルな行為と思われる学生の具体的な態度や行動の内容について

※ 記入スペースが不足する場合は、別紙に記載の上、御報告ください。

7 報告者所属 _____

8 報告者氏名 _____

【提出先】 医学研究科 学務グループ

TEL : 0172-39-5204

E-Mail : jm5204@hirosaki-u.ac.jp

試験実施における不正行為の取扱いに関わるガイドライン

平成 24 年 5 月 30 日教育委員会決定

平成 26 年 1 月 29 日教育委員会一部改正

平成 28 年 4 月 1 日教育委員会一部改正

平成 30 年 4 月 25 日教育委員会一部改正

1 目 的

弘前大学学生の懲戒等に関する規程第 2 条第 1 項に定められた不正行為を未然に防止するため、不正行為の取扱いに関わるガイドラインを示すものである。

2 不正行為

次のことをすると不正行為とみなす。

- a) 受験科目の内容を記入した物品を使用又は身の回りに所持する。
- b) 教科書・参考書・ノート・プリントを使用又は身の回りに所持する（事前に許可されているものを除く）。
- c) 携帯電話・スマートフォン・電子辞書・電卓等の電子機器類を使用又は身の回りに所持する（事前に許可されているものを除く）。
- d) 他の学生の答案を見る。
- e) 他の学生に答えを教える、周囲の学生に見えるように答案や姿勢をずらす。
- f) 本人以外の者が受験する。
- g) その他、上記に準ずる行為及び成績評価や試験実施に支障が生ずる行為。

3 試験監督者による試験開始前の事前注意

試験開始前に以下の内容を口頭又は紙面で指示する。

- a) 事前に許可されているものを除き、筆記用具（その他解答に必要な器具）、時計（アラームを切る）、学生証以外は机の上に置かない。
- b) 教科書・参考書・ノート・プリント等は机の中、椅子の上に置かず、全てカバン等にしまい、椅子の下に置く。
- c) 携帯電話・スマートフォン・電子辞書・電卓等の電子機器類は全て電源を切り、カバン等にしまい、椅子の下に置く。ポケットなど衣服にはしまわない。
- d) 不正行為に対しては厳正に対処するので、不正行為と疑われる不審な挙動はしない。

4 試験中の不正行為への対応

不正行為又はその疑義がある場合は、原則として次のように対応する。

a) 物的証拠がある場合：

不正行為を行っていることを確認した場合は、別紙 2 の「不正行為通告書」を提示して受験を直ちに切りやめさせ、答案を回収し、証拠物件を取り上げた上で試験終了までその場で待機させる。試験監督者は、試験終了後、当該受験者を教務課又は各学部等教務の部屋に移動させ、各部局の学務委員会等委員長等同席のもと、不正行為の態様、時間等の事実確認を行い、書面に署名させる。

b) 物的証拠がない場合：

別紙 1 の「注意書」を提示して警告を与え、以後の行動に注意する。

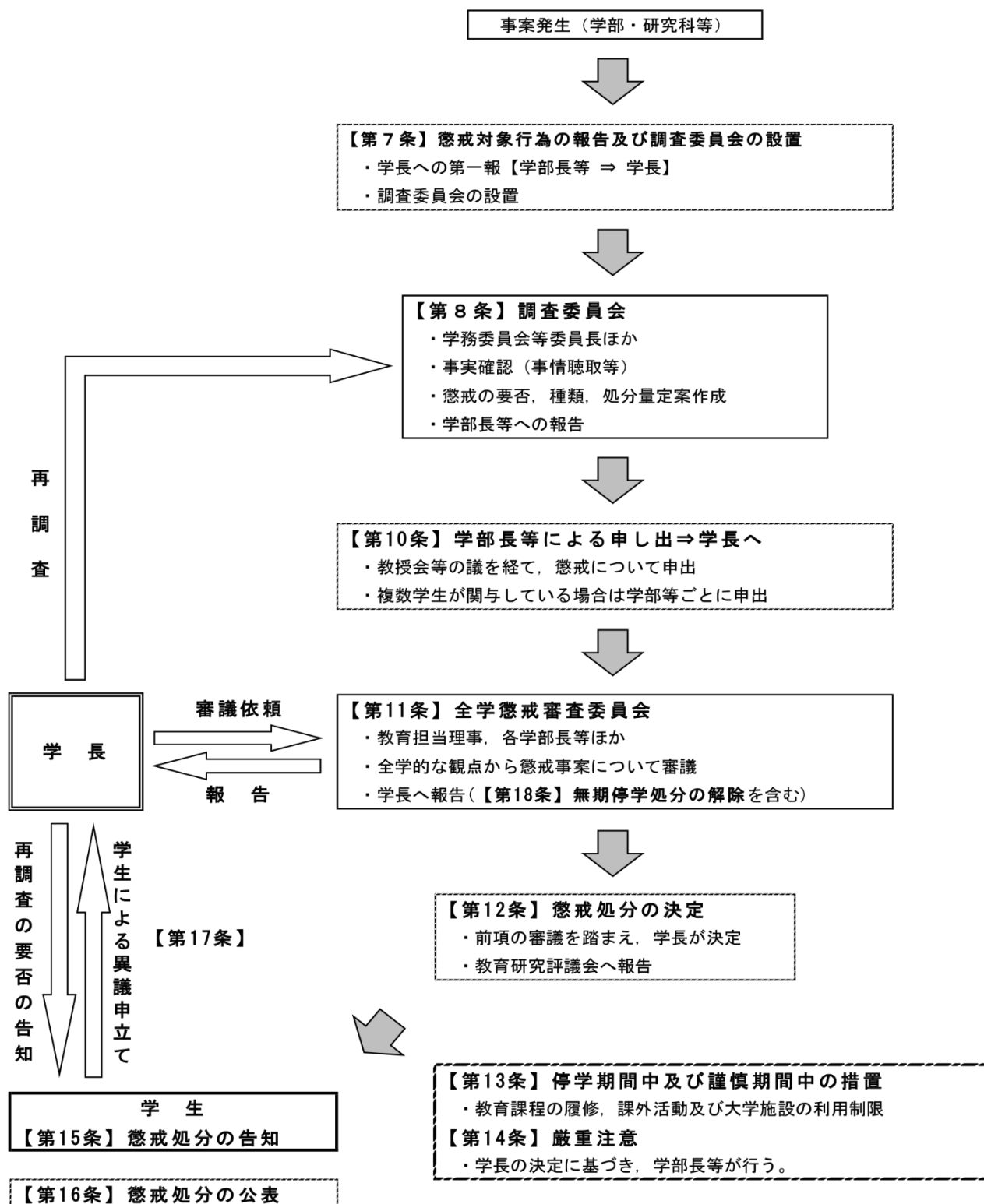
ただし、不正行為（他の学生の答案を覗く等）が明白に確認された場合は、上記 a) の対応に準ずる。

5 不正行為の報告等

不正行為が確認された場合、学務委員会等委員長等は、速やかに学部長等（教養教育科目においては、学部長等に加え、教養教育開発実践センター長）に報告する。

以降の対応は、以下のフローによる。

○弘前大学学生の懲戒処分に関するフロー



6 学生への周知

毎学期始めに、上記2の内容について、教養教育及び各学部等の学生掲示板に掲示する。

また、各学期の試験期間には試験室（講義室）入口・黒板等にも掲示するなど、周知徹底を図る。

事務手続き等について

1. 授業料減免

経済的理由により授業料の納入が困難であり、かつ学業成績が優秀と認められた学生については、前期、後期の学期ごとに選考のうえ、その学期に納入すべき授業料が減免されます。

減免を願い出ようとする学生は、学期ごとの指定する期間内に、所定の書類を提出してください。申請には要件があります。

なお、必要書類の配付及び出願期間等については、その都度、掲示で案内します。

2. 奨学金

経済的理由により、授業料などの支払いが困難な学生を、経済的に援助する制度として、日本学生支援機構の奨学金をはじめ、地方公共団体や民間育英奨学団体の奨学金があります。

これらの奨学金は、いずれも学業・人物ともに優秀でかつ健康である学生に貸与されます。

なお、これらの奨学金制度には、貸与を受けることのできる学生数に一定の制限があるため、必ずしも希望者全員が採用されるものではありません。

奨学金の貸与を希望する学生は、指定された期間内に必要書類を提出してください。必要書類の配付及び出願期間等については、掲示で案内します。

3. 各種願出及び届出

(1) 修学上関係

提出書類	摘 要
住 所 届	年度始めの学年ガイダンスで配布、回収します。
改 姓 届	変更があったとき速やかに届け出てください。 戸籍抄本も提出をお願いいたします。
公欠届（感染症）	インフルエンザに罹患または新型コロナウイルスに感染した場合、「学校保健安全法」に基づき出席停止の措置を取る必要があります。すみやかに学務グループまで届け出ていただき、下記の期間を経過するまでは通学はせず、医療機関を受診するなどして、しっかり療養してください。 なお、出席停止期間が終了次第、左記の届を提出することで、公欠扱いとしています。 ○インフルエンザに罹患した学生は、「発症翌日から数えて5日間が経過し、かつ解熱後2日間」は「出席停止」となります。 ○新型コロナウイルスに感染した学生は、「発症翌日から数えて5日間が経過し、かつ症状軽快後1日間」は「出席停止」となります。
公欠届（忌引き）	親族の死亡に伴い必要と認められる行事のため、授業に出席できない場合は、届け出により忌引き（公欠）とします。原則として事前にその旨を授業担当教員へ連絡するものとします。 ・親族の範囲：①配偶者、1親等（父母・子）の親族 ②2親等（祖父母・兄弟姉妹等）の親族 ※①②ともに配偶者の親族を含みます。 ・忌引きとなる期間：①休日を含む連続7日の範囲内 ②休日を含む連続3日の範囲内 ※葬儀等のため遠隔地に赴く場合は、往復に要する日数を加えた日数とします。 ・届出：葬儀等の行事を終えた後、速やかに学務グループへ会葬礼状とともに提出してください。 ・授業の取扱い：欠席とはせずに公欠扱いとします。

公欠届 (その他事由)	・裁判員制度による裁判員又は裁判員候補者に選任された場合 ・検察審査会の審査員又は補充員に選任された場合 ・骨髄移植のために骨髄液等の提供を行う場合 ・その他学長が必要と認める場合 については、別途学務グループ窓口にてご相談ください。 また、対象となるかどうかについては、以下のサイトを確認すること。 (弘前大学教育情報 公欠について) https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/campus/absence.html
欠 席 届	前述の届のほか、やむを得ない理由により欠席しなくてはならない場合に届け出てください。なお、届出の前に授業担当教員への連絡を行うこととします。(届出が出されても、取扱いとしては欠席となります)
追 試 験 願	やむを得ない事情により試験を欠席した場合は、病気・事故等を証明する書類を添えて、当該試験終了後7日以内に届け出てください。届け出があった場合は、教授会の議を経て追試験を行うことがあります。
休 学 願	やむを得ない理由により、引き続き3か月以上出席することができないときに願い出てください。届け出る休学の期間は1年以内とします。
休学期間延長願	特別の事情により引き続き休学の期間を延長したい場合に願い出てください。
復 学 願	休学期間途中で復学しようとするときに願い出てください。
退 学 願	やむを得ない事情により退学しようとするときに願い出てください。
海 外 渡 航 届	留学や観光等のために海外渡航の計画がある場合は、出国の5日前までに届け出てください。なお、外務省海外旅行登録「たびレジ」にも登録してください。

(2) 授業関係

提出書類等	摘 要
履修科目の変更	教養教育等において、別途掲示で案内します。
成 績 通 知	期日については、別途掲示で案内します。

4. 諸証明書等

証明書類等	摘 要
在 学 証 明 書	自動発行機で発行可能です。 ※ただし、健康診断証明書は、以下に該当する方を除く。 ・当該年度の健康診断を受けていない。 ・検査項目（WEB問診含む）が不足している。 ・再検査項目があるが、再検査をしていない。
学 割 証	
卒業見込証明書	
通 学 証 明 書	
健康診断証明書	
成 績 証 明 書 病院見学申込書 その他各種証明書等	必要とする7日前までに、窓口にて備えてある証明書交付願に必要事項を記入し願い出てください。
学 生 証 再 交 付	窓口にて再交付用Formsの案内がございます。学務グループ窓口までお越しください。

※英文証明書の場合は、発行までに10日程度の日数がかかるため、余裕を持って申し込みください。

5. その他

(1) 窓口受付期間

月曜日から金曜日まで（休日・祝祭日を除く）

8：30～17：00

(2) 一般的連絡

学生に対する種々の連絡・通知は、掲示によって行います。

この掲示による連絡・通知は、修学、福利厚生、課外教育等学生生活上非常に大切なものです、見落としのないように、毎日必ず見るように気をつけてください。

(3) 個人への連絡

個人への連絡事項について、「住所届」で届け出されている携帯電話、メールアドレス等に直接連絡することもありますので、電話番号等が変更になった場合は速やかに申し出願います。

ただし、届け出の住所・電話番号等は、いかなる照会であっても外部に公表することはありません。

医学研究科総務課学務グループ

電話番号	0172-39-5204
	0172-39-5234
	0172-39-5243

授 業 科 目 一 覧

【令和 8 (2026) 年度以降入学者】

		単 位	年次別単位数						備考
			1	2	3	4	5	6	
専 門 基 礎 科 目	医の倫理と原則	1	1						
	医学英語Ⅰ	1	1						
	医用統計	1		1					○
	医学英語Ⅱ	1		1					○
	医学英語Ⅲ	1			1				○
	医学英語Ⅳ	1				1			○
	計	6	2	2	1	1			
専 門 科 目	コ ア 科 目	代謝と遺伝	2	2					○
		正常と病理Ⅰ	1	1					○
		人体の構造	4	4					○
		生体の機能と薬物	4	4					○
		脳神経Ⅰ	1	1					○
		免疫と疾患Ⅰ	1	1					○
		微生物と感染症Ⅰ	3	3					○
		正常と病理Ⅱ	2	2					○
		循環器	3		3				○
		呼吸器	2		2				○
		消化器	3		3				○
		内分泌代謝	3		3				○
		脳神経Ⅱ	2		2				○
		血液とリンパ	2		2				○
		微生物と感染症Ⅱ	1		1				○
		高齢者医療	1		1				○
		臨床腫瘍	1		1				○
		臨床検査	1		1				○
		免疫と疾患Ⅱ	1		1				○
		社会と医学、行動科学	2		2				○
		腎泌尿器	2		2				○
		運動器	2		2				○
		救急災害、被ばく医療	2		2				○
		リハビリテーション	1		1				○
		麻酔・緩和医療	2		2				○
		眼、視覚	1		1				○
		歯科口腔	1		1				○
		皮膚	1		1				○
		耳鼻咽喉	1		1				○
		婦人科と周産期	2			2			○
		精神	2			2			○
		形成、組織再建	1			1			○
		成長と発達	2			2			○
		人の死、死と法	1			1			○
		放射線診断と治療	2			2			○
		臨床薬理と漢方	1			1			○
		症候と診断の基礎	1			1			○
		医療安全	1			1			○
		チーム医療	1			1			○
		地域医療・総合診療	1			1			○
		計	68	3	15	35	15		

			単 位	年次別単位数						備考
				1	2	3	4	5	6	
専 門 科 目	演 習 ・ 実 習 科 目	医学・生命科学入門	2	2						
		臨床医学入門	1	1						
		医療行動科学Ⅰ	2	2						
		医療行動科学Ⅱ	2	2						
		正常と病理Ⅰ実習	1	1						○
		臨床実習Ⅰ	1	1						
		人体の構造実習	3		3					○
		代謝と遺伝実習	2		2					○
		生体の機能と薬物実習	3		3					○
		脳神経Ⅰ実習	1		1					○
		微生物と感染症Ⅰ実習	1		1					○
		正常と病理Ⅱ実習	3		3					○
		臨床実習Ⅱ	2		2					○
		社会と医学、行動科学実習	2			2				○
		研究室研修	3			3				○
		臨床実習Ⅲ	1			1				○
		PBL	6				6			○
		臨床実習入門	10				10			○
		総合教育演習Ⅰ (CBT, pre-CC, pre-CC OSCE)	1				1			○
		臨床実習Ⅳ	44					44		○
		臨床実習Ⅴ	24						24	○
		総合教育演習Ⅱ (post-CC OSCE)	1						1	○
		総合教育演習Ⅲ (総合試験)	1						1	○
		計		117	9	15	6	17	44	26
	計		185	12	30	41	32	44	26	
合 計		191	14	32	42	33	44	26		

備考 ○印は、第2年次編入学者が修得しなければならない科目を表す。

授 業 科 目 一 覧

【令和元(2019)年度～令和7(2025)年度入学者】

授業科目			単 位	年次別単位数												備考
				1		2		3		4		5		6		
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
専門基礎科目	医学英語Ⅰ		1		1											
	医学英語Ⅱ		1				1									○
	医学英語Ⅲ		1						1							○
	医学英語Ⅳ		1							1						○
	医用統計学		1				1									○
	被ばく医療学		1				1									○
	計		6		1	1	2		1	1						
専門科目	コア科目	医の原則	1	1												
		医用システム工学概論	1		1											
		地域医療入門	1			1										○
		解剖学	4			4										○
		生理学	2			2										○
		生化学	2		2											○
		免疫学	1				1									○
		組織学	1		1											○
		神経科学	1				1									○
		薬理学	3				2	1								○
		病理学	3				3									○
		微生物学	3				3									○
		社会医学	2					2								○
		外科学概論	1					1								○
		消化器内科学・外科学Ⅰ	2					2								○
		消化器内科学・外科学Ⅱ	1						1							○
		循環器内科学・外科学Ⅰ	2					2								○
		循環器内科学・外科学Ⅱ	1						1							○
		内分泌・代謝学Ⅰ	2					1	1							○
		内分泌・代謝学Ⅱ	1						1							○
		血液内科学Ⅰ	1							1						○
		血液内科学Ⅱ	1							1						○
		呼吸器内科学・外科学Ⅰ	1					1								○
		呼吸器内科学・外科学Ⅱ	1						1							○
		感染症学	1					1								○
		臨床免疫学	1						1							○
		神経精神医学Ⅰ	1					1								○
		神経精神医学Ⅱ	1						1							○
		小児科学Ⅰ	1					1								○
		小児科学Ⅱ	1						1							○
		婦人科学	1						1							○
		周産期医学	1							1						○
		神経内科学	1						1							○
		腎臓内科学	1						1							○
		症候学	1							1						○
		整形外科Ⅰ	1						1							○
		整形外科Ⅱ	1							1						○
		リハビリテーション医学	1								1					○
		麻酔科学・緩和医療学Ⅰ	1						1							○
		麻酔科学・緩和医療学Ⅱ	1							1						○
		放射線診断学	1						1							○
		放射線腫瘍学	1							1						○
		臨床腫瘍学	1							1						○

授業科目			単 位	年次別単位数												備考
				1		2		3		4		5		6		
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
専門科目	コア科目	皮膚科学	1							1						○
		泌尿器科学	1						1							○
		眼科学	1						1							○
		耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1						1							○
		脳神経外科学	1						1							○
		歯科口腔外科学	1						1							○
		形成外科学	1						1							○
		救急・災害医学	1						1							○
		臨床検査医学	1						1							○
		臨床薬理・和漢薬学	1							1						○
		小児外科学	1						1							○
		病理診断学	1							1						○
		法医学	1						1							○
		医療安全学	1						1							○
		計	72	1	4	7	10	13	14	20	3					
		演習・実習科目	基礎人体科学演習	2	2											
	臨床医学入門		2	2												
	P B L		6							6						○
	解剖学実習		3			3										○
	生理学実習		2			2										○
	生化学実習		2			2										○
	組織学実習		1		1											○
	神経科学実習		1				1									○
	薬理学実習		1					1								○
	病理学実習		2					2								○
	微生物学実習		1				1									○
	社会医学実習		2					2								○
	臨床実習入門		10							10						○
	臨床実習Ⅰ		44								44					○
	臨床実習Ⅱ		28									28				○
	総合教育演習Ⅰ		1							1						○
	総合教育演習Ⅱ		1										1			○
	総合教育演習Ⅲ		1											1		○
	特別教育科目（研究室研修）		3						3							○
	計		113	4	1	7	2	5	3		17	44		28	2	
	計	185	5	5	14	12	18	17	20	20	44		28	2		
合	計	191	5	6	15	14	18	18	21	20	44		28	2		

備考 ○印は、第2年次編入学者が修得しなければならない科目を表す。

授 業 科 目 一 覧

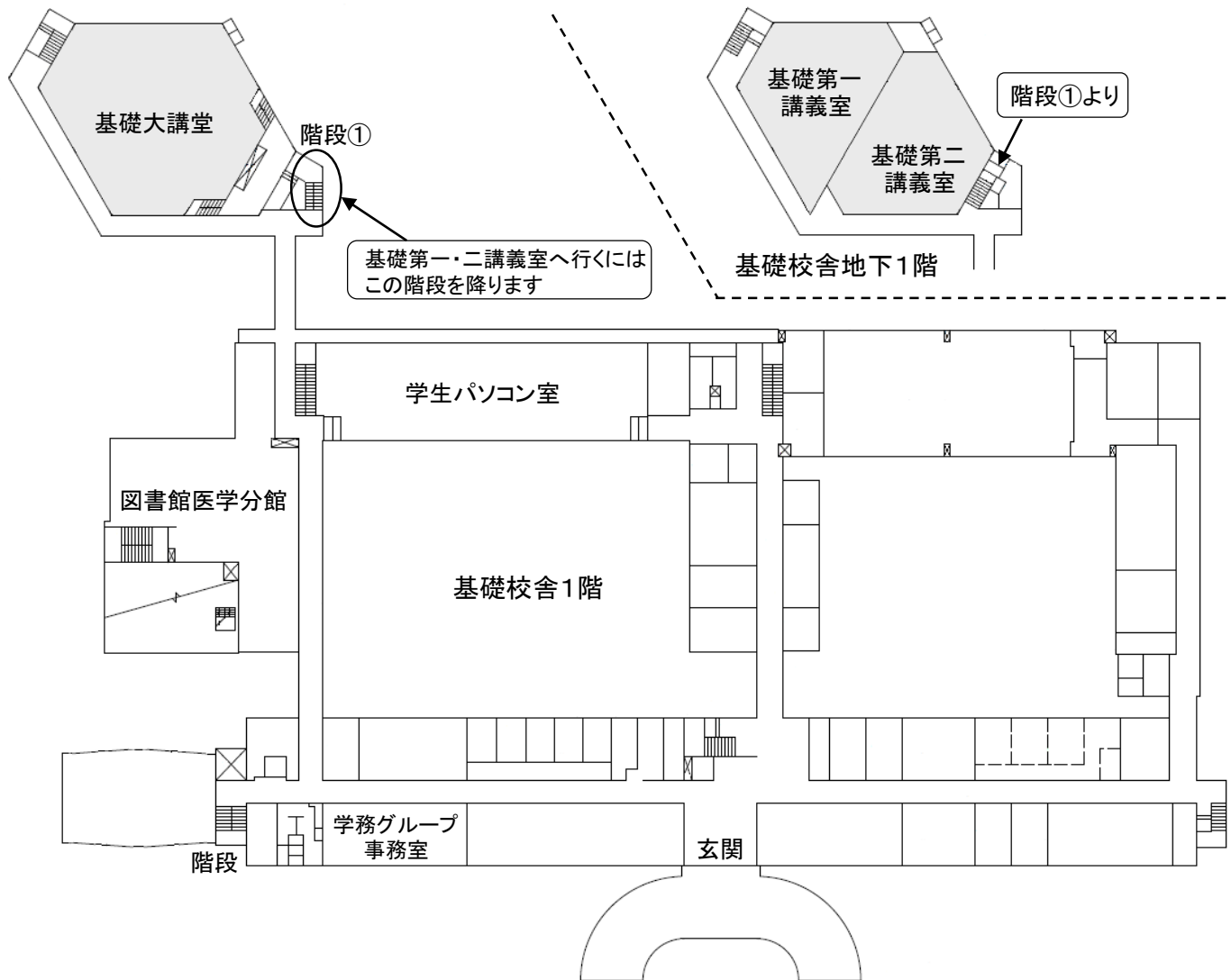
【平成26(2014)年度～平成30(2018)年度入学者】

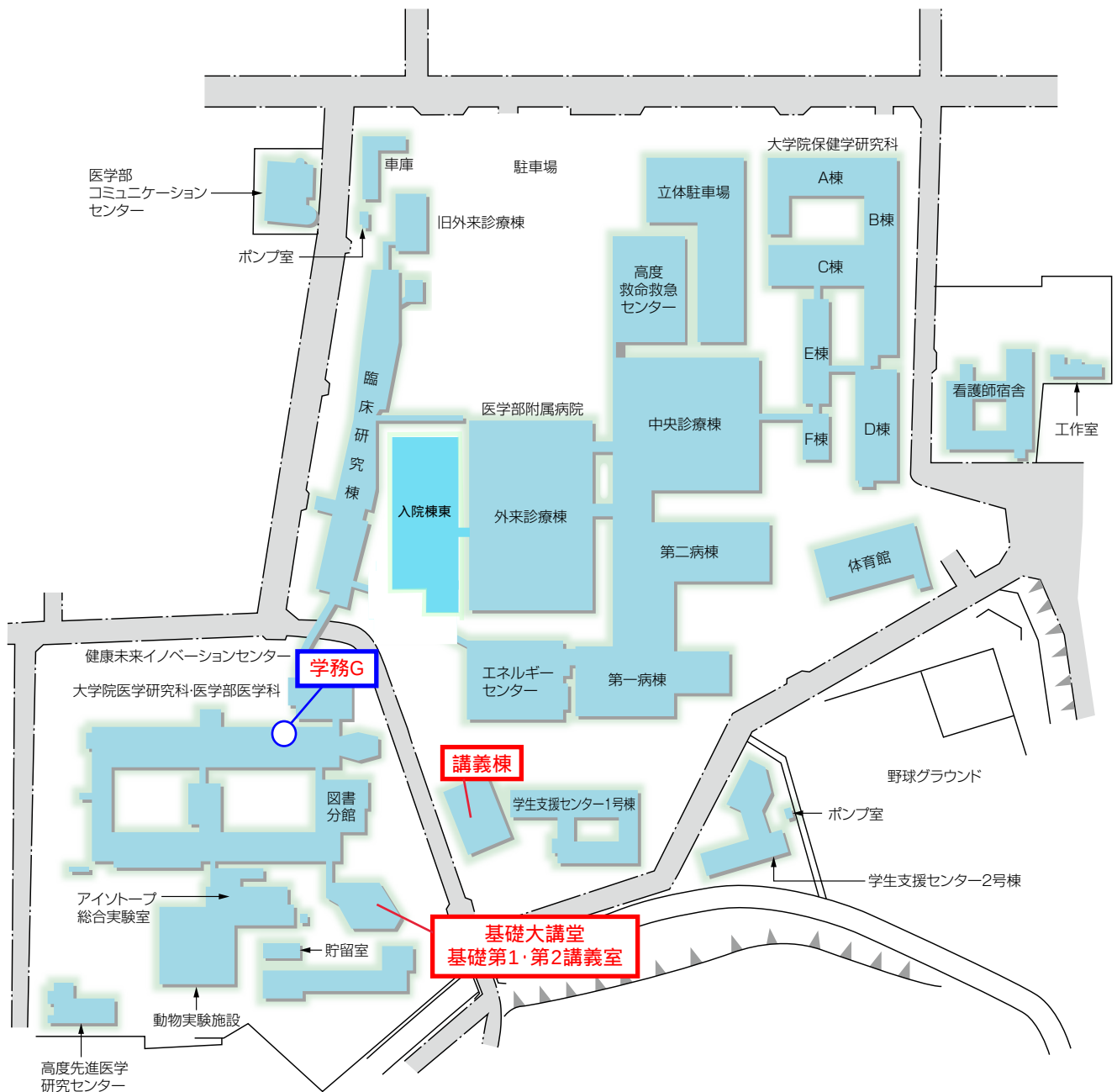
授業科目					単 位	年次別単位数												備考	
						1		2		3		4		5		6			
						前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		
専門基礎科目	医学英語Ⅰ	1		1															
	医学英語Ⅱ	1				1											○		
	医学英語Ⅲ	1						1									○		
	医学英語Ⅳ	1							1								○		
	医用統計学	1			1												○		
	ばく医療学	1				1											○		
	計	6		1	1	2		1	1										
専門科目	コ	医の原則	1	1															
		医用システム工学概論	1			1												○	
		地域医療入門	1			1												○	
		解剖学	4			4												○	
		生理学	2			2												○	
		生化学	2			2												○	
		免疫学	1				1											○	
		組織学	1				1											○	
		神経科学	1				1											○	
		薬理学	3				2	1										○	
		病理学	3				2	1										○	
		微生物学	3				3											○	
		社会医学	2					2										○	
		外科学概論	1					1										○	
		消化器内科学・外科学Ⅰ	2					2										○	
		消化器内科学・外科学Ⅱ	1						1									○	
		循環器内科学・外科学Ⅰ	2					2										○	
	循環器内科学・外科学Ⅱ	1						1									○		
	ア	内分泌・代謝学Ⅰ	2					1	1									○	
		内分泌・代謝学Ⅱ	1						1									○	
		血液内科学Ⅰ	1							1								○	
		血液内科学Ⅱ	1							1								○	
		呼吸器内科学・外科学Ⅰ	1					1										○	
		呼吸器内科学・外科学Ⅱ	1						1									○	
		感染症学	1					1										○	
		臨床免疫学	1						1									○	
		科	神経精神医学Ⅰ	1					1										○
			神経精神医学Ⅱ	1						1									○
			小児科学Ⅰ	1					1										○
			小児科学Ⅱ	1						1									○
			婦人科学	1						1									○
			周産期医学	1							1								○
			神経内科学	1						1									○
		目	腎臓内科学	1						1									○
			症候学	1							1								○
	整形外科学Ⅰ		1						1									○	
	整形外科学Ⅱ		1							1								○	
	リハビリテーション医学		1								1							○	
	麻酔科学・緩和医療学Ⅰ		1						1									○	
	麻酔科学・緩和医療学Ⅱ		1							1								○	
	放射線診断学		1						1									○	
	放射線腫瘍学		1							1								○	
	臨床腫瘍学		1								1							○	

		皮膚科学	1							1						○
		泌尿器科学	1							1						○
		眼科学	1							1						○
		耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1							1						○
		脳神経外科学	1							1						○
		歯科口腔外科学	1							1						○
		形成外科学	1							1						○
		救急・災害医学	1							1						○
		臨床検査医学	1							1						○
		臨床薬理・和漢薬学	1								1					○
		小児外科学	1							1						○
		病理診断学	1								1					○
		法医学	1								1					○
		医療安全学	1							1						○
		計	72	1		10	10	14	14	19	4					
	演習・実習科目	基礎人体科学演習	4	2	2											
		臨床医学入門	4	2	2											
		P B L	6								6					○
		解剖学実習	3			3										○
		生理学実習	2			2										○
		生化学実習	2			2										○
		組織学実習	1				1									○
		神経科学実習	1				1									○
		薬理学実習	1					1								○
		病理学実習	2				1	1								○
		微生物学実習	1				1									○
		社会医学実習	2					2								○
		臨床実習入門(演習科目)	10								10					○
		臨床実習Ⅰ(学内BSL)	44									44				○
		臨床実習Ⅱ(クリニカルクラークシップ)	17											17		○
		総合教育演習Ⅰ(CBT)	1								1					○
		総合教育演習Ⅱ	8												8	○
		総合教育演習Ⅲ(総合試験)	1												1	○
		特別教育科目(研究室研修)	3						3							○
		計	113	4	4	7	4	4	3		17	44	17	9		
		計	185	5	4	17	14	18	17	19	21	44	17	9		
		合計	191	5	5	18	16	18	18	20	21	44	17	9		

備考 ○印は、第2年次編入学者が修得しなければならない科目を表す。

講義室等配置図





弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ

令和8（2026）年度以降入学者

豊かな人間性と高度の医学知識に富み、
求められる社会的役割を的確に果たすことができ、
広い視野と柔軟な思考力を持つ医師・医学研究者の養成

- PR. プロフェッショナリズム
- GE. 総合的に患者・生活者をみる姿勢
- LL. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
- RE. 科学的探究
- PS. 専門知識に基づいた問題解決能力
- IT. 情報・科学技術を活かす能力
- CS. 患者ケアのための診療技能
- CM. コミュニケーション能力
- IP. 多職種連携能力
- SO. 社会における医療の役割の理解

基礎・臨床医学（水平統合・垂直統合）

医学・生命科学入門、正常と病理Ⅰ/Ⅱ、代謝と遺伝、人体の構造、微生物と感染症Ⅰ/Ⅱ、免疫と疾患Ⅰ/Ⅱ、生体の機能と薬物、脳神経Ⅰ/Ⅱ、消化器、循環器、呼吸器、内分泌代謝、血液とリンパ、臨床腫瘍、臨床検査、腎泌尿器、運動器、リハビリテーション、眼・視覚、麻酔・緩和医療、歯科口腔、皮膚、耳鼻咽喉、精神、婦人科と周産期、形成・組織再建、成長と発達、放射線診断と治療、臨床薬理と漢方、症候と診断の基礎

臨床医学入門
(含Early exposure)
医の倫理と原則
医療行動科学Ⅰ・Ⅱ

医用統計

高齢者医療

救急災害
被ばく医療

社会と医学
行動科学

研究室
研修

人の死
死と法

地域医療
総合診療

医療安全
チーム医療

PBL

臨床実習
入門

病理診断
臨床倫理
医療情報
感染制御

共用試験
(CBT / Pre-CC OSCE)

臨床実習
(診療参加型)
附属病院・学外実習施設

へき地
医療実習

共用試験
(Post-CC OSCE) 総合試験

医師国家試験

教養教育科目

医学英語

1年次

2年次

3年次

4年次

5年次

6年次

弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ

令和6（2024）年度～
令和7（2025）年度入学者

豊かな人間性と高度の医学知識に富み、求められる社会的役割を的確に果たすことができ、
広い視野と柔軟な思考力を持つ医師・医学研究者の養成

- PR. プロフェッショナリズム
- GE. 総合的に患者・生活者をみる姿勢
- LL. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
- RE. 科学的探究
- PS. 専門知識に基づいた問題解決能力
- IT. 情報・科学技術を活かす能力
- CS. 患者ケアのための診療技能
- CM. コミュニケーション能力
- IP. 多職種連携能力
- SO. 社会における医療の役割の理解

基礎医学

解剖学・生理学・生化学・免疫学・組織学・
神経科学・薬理学・病理学・微生物学

医用システム工学

医用統計学

医の原則
(医療倫理学・医療法学)

被ばく医療学
(放射線災害・リスク
コミュニケーション)

臨床医学入門
(Early Exposure・行動科学)

地域医療入門

研究室
研修

社会医学
(含：岩木健康増進
プロジェクト活動)

法医学

医療安全学
(含：医療法学)

臨床実習入門
(地域医療学・医療倫理学・
行動科学・PBL)

臨床医学

内科学・外科学・神経精神医学・小児科学・産科
婦人科学・整形外科学・リハビリテーション医
学・麻酔科学・放射線科学・皮膚科学・泌尿器科
学・耳鼻咽喉科学・脳神経外科学・眼科学・歯科
口腔外科学・形成外科学・救急災害医学・
臨床検査医学・病理診断学

共用試験
(CBT / Pre-CC OSCE)

臨床実習
(診療参加型)
附属病院・学外実習施設

へき地
医療実習

Post-CC OSCE・総合試験・国家試験

教養教育科目

医学英語

1年次

2年次

3年次

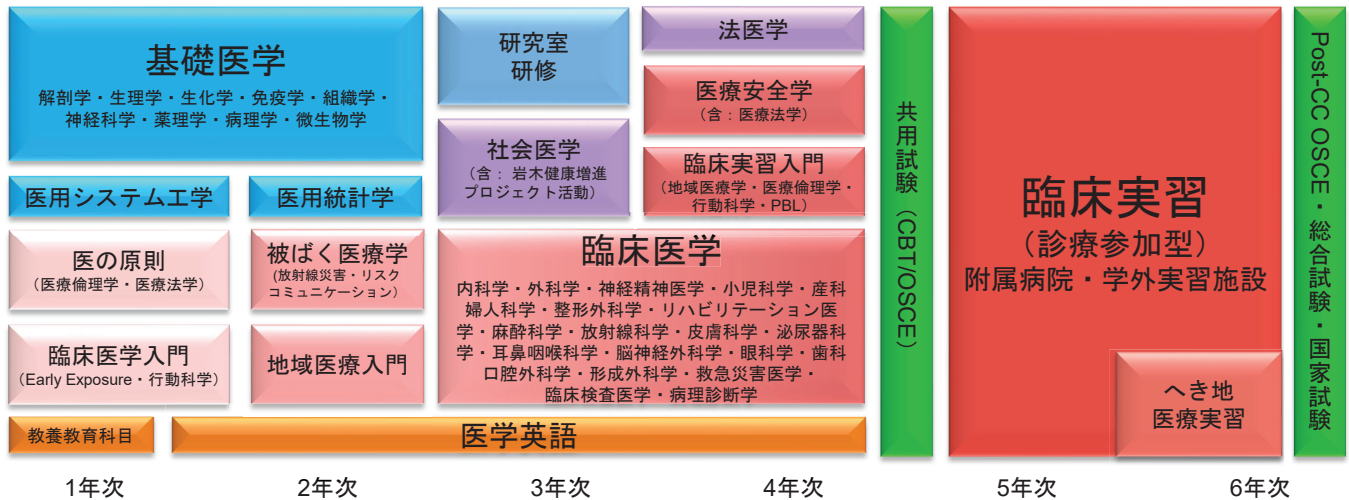
4年次

5年次

6年次

豊かな人間性と高度の医学知識に富み、求められる社会的役割を的確に果たすことができ、
広い視野と柔軟な思考力を持つ医師・医学研究者の養成

1. プロフェッショナリズム
2. 医学的知識
3. 問題対応能力
4. 診察技能と患者ケア
5. コミュニケーション能力
6. チーム医療の実践
7. 医療の質と安全管理
8. 社会における医療の実践と国際的視野
9. 科学的探究
10. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢



MEMO
